5861
2144
no. 16

大正十一年十月廿八日印刷納本
大正十一年十一月一日發行（毎月一回一日發行）

LA SEMANTO

種蒔人

行動と批判

第二年第三巻第十四號

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

五九郎の代數

傍人主義者

ゴルキイ
ラデック

革命の善惡

勞農露西亞承認

擡頭期の農民藝術

◇十一月號◇

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes' aŭ „ne," „vero' aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

Jen! ni batalas por la nuntempa Vero. Ni estas la mastro de nia vivado. Kiuj neas la vivadon, fine ne estas nuntempaj homoj Por la vivado ni protektadas la Veron de Revolucio. „La Semanto" stariĝas pro tio—kune kun la kamaradoj el la tuta mondo!

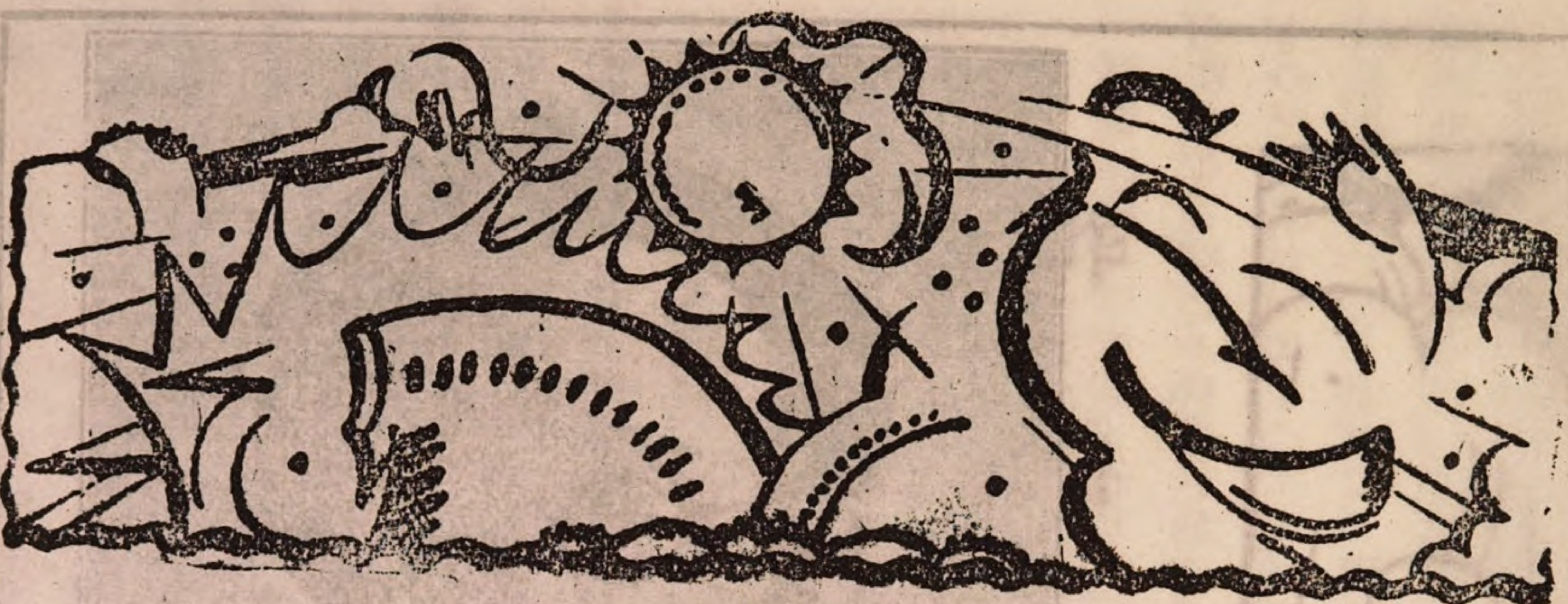
La Semanto. (*TANEMAKIŜA*)

種蒔く人十一月號目次

現實革命と藝術家(題言)……
昨日と今日……
奴隷の反逆……
レーニン論……
ボルシエヴイスト動く……
レニンの實驗……
智識階級と無智識者の闘爭……
社會革命黨裁判に就てアナトル フランスへ……
マキシム・ゴルキイ

アナトル・フランスの來露を促す……ソヴィエツト政府
マキシム ゴルキイと露西亞革命……カアル・ラデック
女 詩 人(詩)……村松正俊
敵を呪ふ詩(詩)……松本淳三
五九郎の代數……武林無想庵
傍人主義者……青野季吉
勞農露西亞承認問題批判(初之輔)——藝術の遊戯化に就て(賢三)——柳瀨正夢君の漫畫(小牧)——擡頭期にある農民藝術に就て(淳三)——二科と院展(正夢)……
□シベリヤ通信……富永宗四郎
□世界欄——地方欄——聾人……
□社會主義講座……

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



現實革命と藝術家

僕らのこんどの企は一個の藝術家が、如何に最初革命に反對し、革命に醉ひ、[illegible]

[illegible]

僕らは暴力肯定者としてひとり最後に取り殘されたプロレタリアの藝術家、反逆せる奴隷のための藝術家マキシム・ゴルキイに最大の敬意を拂ふものである。しかし、僕たちの愛するマキシム、ゴルキイですら、みだりに感情を詩化するとき、文學のヒステリイ病にかかり得ることのあることを記憶せねばならない。

同志諸君はマキシム・ゴルキイの思想の經路について各自學ぶところがあるであらう。が、僕らは感ずる、藝術家は現實に對して斷然感情の詩人となつてはならない。

一九二一年十一月七日、僕たちは無條件で革命の藝術家マキシム・ゴルキイを讚美することをしつて、赤色ロシアに對する僕たちの意志全部の

[illegible]

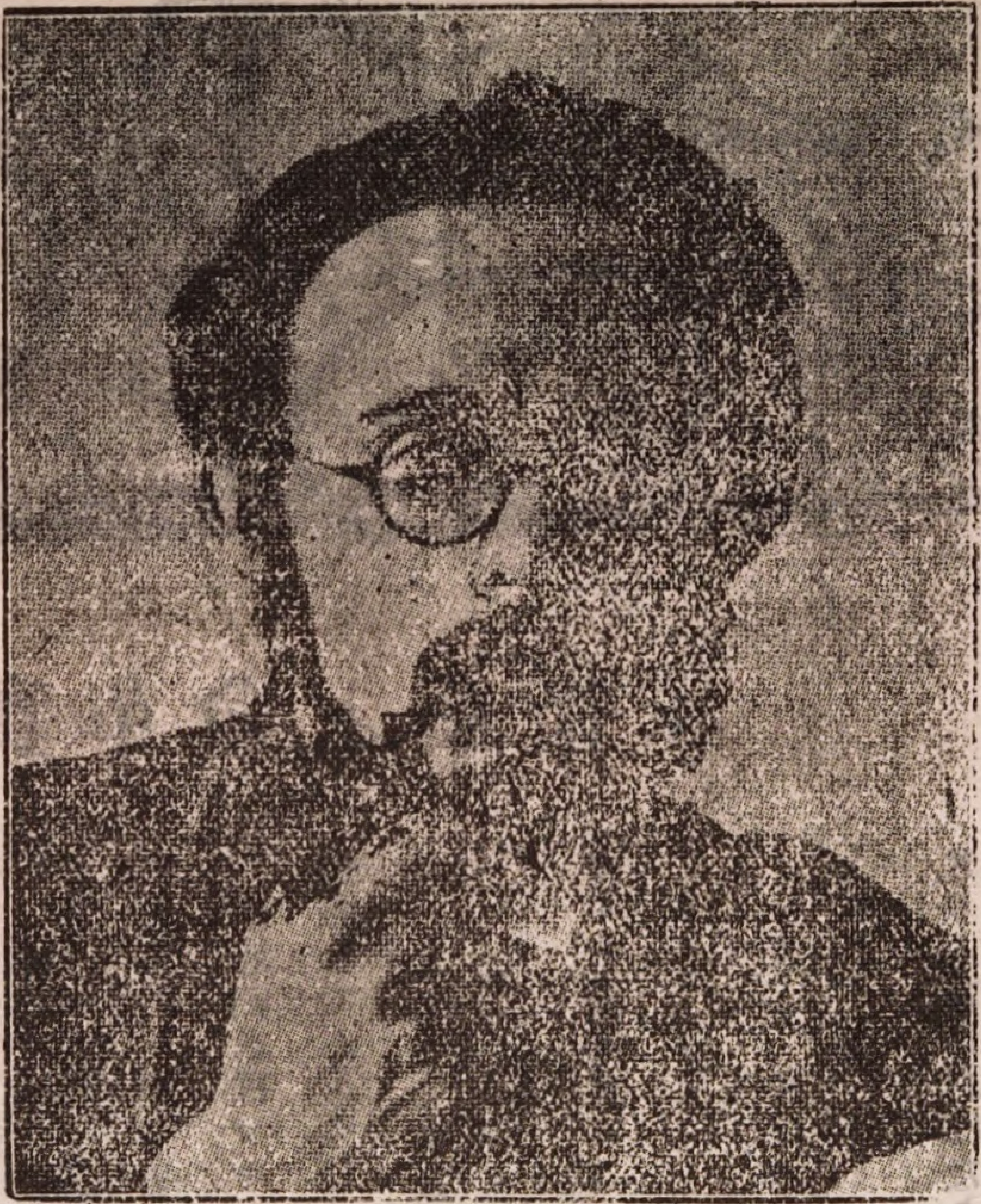
一九二二年十一月七日、[illegible]

[illegible] 思想の藝術家は常にその態度をはつきりしなければならぬと同時に、彼にとつて常に用心しなければならぬところのものは、感情の詩化であることを無上の敎訓としやう。

東167816

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ラデック

ゴルキー

昨日と今日

昨日限りであつた――大きな嘘によつて支配される日が終つたのは。

往昔から、人間は、用心深いブルヂョワ生活の頑丈な網を、蜘蛛のやうに一條々々と勤勉に織り交ぜて來た。そしてこの用心深いブルジョワ生活の中へ、一歩々々、嘘と貪欲とを浸み込ませて來たのだ。人は、他人の血と汗とによつて養なはれるのは當然だと考へ、且つ又、元々、自然に對する闘ひの式器であらねばならぬ生産機關が、人間を壓迫する手段として用ひられるに到つたこの厚顔な嘘を、餘りに當然な眞理であるやうに思つて來たのである。

斯くして吾々共は、歐洲戰争の狂態までこの道を辿つて來た。然もこの戰争の悪夢から逆り出た眞紅な光は、手前勝手な苦からの嘘の兇猛な姿を、突然眞裸にして明るみの中へ曝け出したのである。

吾々の眼の前にある古い世界は、その土台から根こそぎ堀り返へされて搖れ動き出した。その陰險な内幕は切つて落された。盲目でさえも視力を恢復して、今こそ、過去のありとあらゆる醜さを見極められるのだ。

[illegible]

[illegible]ブルデョワの腐爛した生活を破綻させた。そしてこの腐つた生活を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

元通りの形に復らすことはもう駄目だ。では、古い世界の息は全く絶え果てたのか？ 否、息は未だ通つてゐるが餘命は明日限りだ！

全く怖しいことばかりだ。が當り前のことだ。分り切つたことだ。梅毒と酒精と權力とに中毒した人間共が、寛大であり得ないのは當り前ではないか？

（譯者註。四年の間云々は歐洲戰爭の謂）

昨日蒔いた種は、今日芽を生かぬ譯にはゆかない。

現在は殘忍である。がこの殘忍は現在の罪ではない。あらゆることは吾々自身が創る。禍も又、人間の力で創つたものだ。禍が何によつて結ばれ、又何によつて固められたかといふことは、すべて、明らかに過去の廢墟の裡に見ることが出來る。

たへと遲蒔きであるにもせよ、又無益であるにもせよ、人間は今復讐の欲求に驅られて、猛獸のやうに、赤裸々な姿をして、歷史の鏡の前に佇つ立つてゐるのだ。無論、斯うした今日の人間に對する非難は山程ある。

が、陽は餘りに明い！――隨つて影は極度に暗い。で今日、塵埃の中で、泥濘の中で、破壞の混沌の中で、鐵のやうに硬い過去の蜘蛛の巢の網目から、人間を解放しやうとする偉大なる仕事が既に開始され、然もその仕事は、出產の陣痛のやうに怖ろしく、且つ困難なものであるといふことを知らなければならない。また、昨日の禍は今日の人々と一緒に、臨終の際に喘いでゐることを知らねばならない………。

よしそこで、世界の民衆の前衛として、ロシア人である。最も弱い、最も戰爭に不得手なロシア人である。經濟方面と文化方面とで最も幼稚なロシア人である。その過去に於て、いづれの國民よりもひどく虐げられたロシア人である。

昨日まで、全世界から牛獸の取り扱ひを受けて來たロシア人は、今日餓死しないばかりの狀態にありながら、然も老戰士の如く勇敢に勝利か死かの二途に向つて進んでゐる

のである。自由に向つて進み、單純な合理的な生活に向つて進む、人間性の打ち克ち難い傾向が、根據のない妄想ではなく、確かに實在的な力であり、人生の新しい形象を創り上げる唯一の可能力であるといふことを、[illegible]と思ふ。(マキシム・ゴルキイ)

奴隷の叛逆

私は色々な人から相續いて手紙を貰つた。それは皆、絕望的な調子を持ち、死なんばかりの恐怖を現はしてゐる。その手紙を書いた人達は、餘りに多くの時を、餘りに多くの暗い日を過したがために、彼等の心は眠れぬ程の不安な思ひに惱まされた事だらうと感じられる。

『ロシアの善良な人民はどうなつたのでせうか。何故彼等は血に飢えた猛獸に變つたのでせうか。』と一夫人は香入りの紙に書いて寄來した。『基督は忘れられ、その敎義は汚されました。』とF伯爵は書いゐる。『貴方は滿足して居られますか。隣人に對する愛といふ大原理はどうなつたのでせうか。學校と敎會の感化は?』とプルウテン・・・・タンボフは私に尋ねてゐる。

或る者は叱り脅かし、或る者は空泣きするに止まつてゐる。此の悲劇的なそして崇高な時代を通るといふ考への恐ろしさに、彼等は皆昂奮し憔衰してゐる。私は一人々々別に答へる譯にいかないから、皆一緒に、此處でお答へする

「紳士及び淑女諸君――」

民衆の生活に對する諸君の罪惡的な無關心を償ふ時が來ました。諸君が感ずる一切のもの、諸君を苦しめる一切のもの――諸君はそれを受けるに値してゐます。私は只一つの事しか諸君に言ふことも出來ねば望むことも出來ない。それは、[illegible]ぞ。然し諸君の魂のなかに未だ殘つてゐる健全な正直な點は全て、同じく植附けられてゐる醜穢と陋劣と

から清められることは出來る——殆んど注意しなかつた諸君の魂、貪慾と虛僞と支配精神とに滿ちた、一言で言へば最も醜惡な一切の本能に滿ちた諸君の魂でも！

奧さん！ 貴女は民衆の上に起つた事を知りたいのですね。民衆は忍耐しきれなくなつたのです。民衆は長い間默つてゐました。長い間、身動きもせずに、暴力に屈服してゐました。長い間、その屈從した背は强者の生活の全重量を背負つてゐました。然し今や、民衆はもうそれが出來ないけれども、背負はされた重荷を肩から振落すには、まだ遠いのです。奧さん、貴女は餘り早く恐れ過ぎました。明らさまに言へば、民衆人は猛獸にならなきや、何になることが出來たでせうか。民衆が他のものになるやうに、貴女は何かしましたか。民衆が理性的になる樣な何かを、貴女は敎へ込みましたか。少しでも善良な種を貴女は民衆の心に蒔きましたか。

貴女の全生涯を通じて、貴女は民衆の勞働を奪ひ、そのパンの最後の一片を奪ひ、而もそれが民衆を傷けることも悟らなかつたのです。貴女は自分を生活さして呉れるものは何か、何が自分を支へてゐる力であるかも、顧みずに生活してゐました。化粧の美しさで、貴女は貧民や不幸者の羨望をそゝつてゐました。貴女が田舍に行つて農奴の側で生活してゐた時には、高い所から、農奴を下等な人種かの如く見下してゐました。農奴達は然し醉つてゐたのです。彼等は生來善良で感じ易いのであるが、貴女方が惡くしてしまつたのです。貴女は相續を廢せられた者の何らあづからない祝祭を催してゐながら、而も彼等が恩を忘れてはいけないと言ふのでせう？ 貴女の歌も音樂も飢えた人間を敎化することは出來なかつた。農奴に對する輕蔑的な寛大振りは、貴女に對する尊敬の念を彼等の心に起すことは出來なかつた。貴女は一體何をしてやりましたか。農奴の心を善くする樣に努めましたか。否、貴女は彼等を殘忍にしました。貴女は彼等がもつと知識のある樣に望みましたか。否、貴女はそんな事は考もしなかつた。農奴は貴女にとつて一頭の家畜に過ぎなかつた。貴女は宛も野蠻人に接する樣に彼等に接したけれど、嘗て彼等の中に人間的存在を見ようとはしなかつた。ぢや、彼等が貴女に對して獰猛な獸であつたとて、何の驚くことがありますか。

奧さん！ 御質問は單に人生に關する貴女の無識を現すばかりでなく、自分が罪を犯したことを感じながら、公然と罪を認めようとしない犯罪人の僞善を現すものでありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。

貴女は知つて居られた、貴女はどんな風に農奴が生活してゐたかを見ないでゐることは出來なかつた。打たれた人間は、晩かれ早から、猛烈に復讐する筈です。憐みをかけられなかつた人間は、憐みを知らない。それは明かな事です。更に進めば、それは正義に外ならない。さあ、よく聞いて下さい。もつと恐しいのは、鬪ふことではなく、鬪ふより他の事は出來ないといふことです。憐みを起さないといふのではなく、起すことが出來ないといふことです。貴女が自ら復讐の種を蒔いた心の中に、どうして憐みを求めることが出來ますか？

奥さん！　キエフで、ロシヤの善良な人民は、有名な大工業家ブロドスキイをその家の窓から投げ出した。同樣に家政婦も街路に投げ落された。然し籠の中に居た一羽のカナリヤは助けられた。この事實をよく考へて御覽なさい。小さなカナリヤはある種の憐みを起させた、所が、人間は窓から投げられたのです。この樣に、叛逆者の心にも憐みを入れる餘地はあります。然しこの憐みは、それに値しない人間に對するものではない。一切の恐怖と一切の悲劇があるのは、これがためです。

奥さん、貴女はその全生涯の間、隣人に對して憐みを持たず、自分と平等なものを彼等の中に見出さずに居ながら彼等が貴女に對して人間に對する樣に行動することを求める權利があると信じて居りますか。貴女は手紙をお書きになる、貴女は教育がある。貴女は農奴生活を書いた本も多分讀まれたでせう。では、彼等がどんな生活をしてゐるか知つてゐて、而もその生活を改善しようとは少しもしなかつたのに、農民の方に何を期待しようとするのですか。今や、悲慘なのは貴女です。そして此處に――御承知の筈ですが――貴女の歎きを晴らすことも、悲しみを慰めることも出來ない男に向つて、恐怖に顫える手で絶望の手紙を書いてをられる。さうです、私には出來ない。

贖罪は事物の理法であります。吾々は極く最近まで人間がナガイカで鞭たれ、死ぬまで打たれてゐた國に住んでゐるのです。その國では肋骨は折られ、顔は弄みに傷けられてゐた。そこで人間に加へられる暴力は際限がなかつた。そこでは拷問は不快と恥とのため狂人になるまで果てしなく變化して行つた。地獄の苦しみを易々と思ひ起させる樣な學校で教育された民衆、拳骨と鞭とナガイカとで教育された民衆が、優しい心を持つことが出來ようか。警官が踏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みつけた民衆は、今度は他人の身體の上を歩くことが出來るだらう。不正があれ程長い間行はれてゐた國では、民衆が翌日から正義の力を實現することは困難である。正義といふものを知らなかつた人間に、正しかれと要求することは出來ない。是等一切は、奥さん、貴女及びその社會が、人間があらゆる方法で苦しめられることを、何ら抗議せずに許してゐた、さう言ふ世界で理解されるのです。今日では人間は、貴女のお父さんが當時小姓になした平手打を、五十年前より遙かに深く感じてゐます。

人間は進歩しました。人間は進歩するに從つて、個人的尊厳の感情が生じて來るのに、相變らず單に獸として、奴隷のやうに取扱はれてゐた。奥さん！ 貴女が與へなかつたものを人間に求めるのはお止しなさい。貴女には憐みを求める權利はない、憐みは貴女には知られてゐないのです民衆は、自分達の上に何等かの勢力を持つてゐたもの、若しくは尚持つてゐる者から、苦しめられて來、まだ苦しめられ續けてゐます。

然しこの國には他の力があります。偉大な思想に鼓舞され、正義と自由と美の王國の、眩しい夢に生かされる、光輝ある力があります。然し、奥さん、見るに眼を持たないものに、海の美と偉大さを言葉で描いて見せて、それが何になりませう。」（マキシム・ゴルキイ）

レーニン論

一

ウラデミール・イリイッチ・レーニンは文化の進歩の上に於ける個人の力は何ほどのものでもないと云ふ學者の信奉者である。けれども私の見る所では、レーニンその人は、それがなくてはロシア革命が現在の經路を取ることの出來なかつた精力の泉源であると思はれる。

私は曾て——或條件つきで——彼をピーター大帝と比較したことがある。此比較は誇張だと云つて嘲られた。けれど無論これは條件つきの比較である。私一個にとつては、ロシアの社會改革者としてのレーニンは、世界革命家としてのレーニンほど重要な人物はない。歴史は、ロシアと呼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばれる此の雜然たる・魯鈍な人間の蟻の塔をどん底から埋り返へすといふ非常な大事業を彼の意思に命じた。彼の意思の恐るべき精力は・單なるロシアの改造を以て甘んじない。その意思の力は、西洋の恐るべき資本主義國家や、何

今日なほ私は——レーニンに反對した二年前と同じく——レーニンにとつては・ロシアは世界的な仕掛でとり掛つた巨大な社會的實驗の最初の材料にすぎないのだと考へてゐる。ロシアの民衆はこの實驗の犧牲者のように思へたので、私は彼等を憐れみ、且つ實驗に對して憤つた。けれどもその時以來、ロシア革命の出來る徑路を觀察し、その革命的效果が深く且つ廣く普及するのを見るに及んで、私はそれが眞に資本主義の基礎を破壞し得るような力を實際に喚起し、且つ組織しつゝあることを認めるようになつた。今や私は、よしやロシアが社會的實驗の材料に供せられたにせよ、ロシア勞働階級の潛在的精力を有效な、能動的な精力に變へるために此社會的實驗を促進しようとして努力してゐる人を咎めることは誤まつて居る、と考へて居る。

私は勿論レーニンを辯護したり庇つたりするために此文を草する者ではない。そんなことはレーニンにとつても、私にとつても無用である。けれども私は多少彼を知つてゐる。そして『客觀的に考へる人々』が、彼を殘酷な內亂や恐怖主義や、其他の犯罪の原因として責める時に、私はロイド・ヂョーヂのことを考へる。ロイド・ヂョーヂは一九一三年から一四年にかけて、獨逸を視察に出かける英國の敎師達や、又英國を訪問した獨逸の敎師達に向つて、散々獨逸を褒め上げた。が恰度其れと同時に、彼は一方で獨逸に對して用ふべき銃劍や爆彈を製造して居たのである。總て是等の所謂『大人物』——最も耻知らずの皮肉家クレソー全歐的虐殺組織の爲の公債に協贊を與へた社會主義者、毒瓦斯其他の恐るべき物を發明した科學者、一九一四年には獨逸を呪ひ一九一八年には英國を呪ふた詩人等、——是等總ての、滅び行く舊社會の、黴の生えた、腐敗した要素は歐洲文化の上に、深い致命傷を與へたのである。そして彼等は今や內亂の繼續を容易にし、封鎖によつて內亂を激烈にし、小さな子供達を飢餓と寒氣とのために虐殺することによつて、ロシアを苦しめてゐるのである。

過談はたとへ万々一それを指摘せねばならぬとしたところで——犯罪とは違つてゐる。レーニンの犯した過ちは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正直な人間の犯す過ちである。彼の場合はロイド・ヂョーヂやクレマンソーらの連中の場合とは譯が違ふ。ロイド・ヂョーヂやクレマンソーの連中は、その極悪非道な仕事の上に曾て造り損じといふものをしたことがない。彼等は職業的人殺しとして、一國家全體の民衆を飢餓と寒氣の苦しみに陥れ、絶對に無意義な内亂を援けてゐる。ロシアにはボリセキキ以外には政府の權力を自己の手中に收め、疲弊し切つた國の精力を喚起し、生産的勞働に無くてはならぬ力を呼び覺まし、使用することの出來るものはないのであるから、彼等の企ては實際氣狂沙汰である。

二

てレーニンのことを語るに當つて、私はレーニンに對する個人的な好意を抑へてかゝらねばならぬ。私は自國の生活を説述する著作者としての自分に興味のある他の一切の人物や現象と等しく彼をもたゞ一人の人間として觀察するに留めねばならぬ。

レーニンが勞働者の集會に對して演説する所を見るがいゝ。彼は極度に分り易い言葉を使ふ。彼は鐵の舌をもち、斧の論理を以て語る。彼は彼の嚴格な言葉の中に、未だ曾て野卑な煽動主義や無意味な美辭麗句を列ねた雄辯家氣取は見出すことが出來なかつた。彼はいつも同じことを云つてゐる。即ち人間の社會的不平等を根絶する必要と、それを行ふ方法とについて語るのみである。此の古い眞理が彼の唇に上ると、嚴正な、頑強な響きを傳へる。人はそれに對する彼の信念が大磐石のようなものであることを感ずる人は彼の信念がどれほど根強いものであるかを感ずる。それは狂信家の信仰である。とは云へ、彼は形而上若くは神祕的な狂信家ではなくて、狂信的な科學者なのである。

彼には個人としての人間は少しの興味をも惹かず、たゞ黨派として、大衆として、國家としての人間だけが興味を惹くことであるらしい。そしてそういふ方向を取扱ふには彼は天禀の先見と、實驗的思想家の直觀的天才をもつてゐる。彼は、激しい間斷のない智的勞働によつてのみ得られる、かの明晰な頭腦をもつてゐる。

或フランス人が曾て私にかう聞いた『君はレーニンといふ人物を、物を考へる斷頭台だとは思ひませんか。』私は答へた『私は彼の心の働きを、當然滅ぶべき時の來たものを必ず粉碎しなくては已まぬ、目のついてゐる鐵槌のように思ふのです。』

全世界の小ブルジョアにとつては、レーニンは、奴隷制

度と掠奪との上に築かれた、彼等の繁榮と幸福とのローマの都を破壞しに來た野蠻人と見えよう。

歐洲文化の價値がどうだとか、それを此新しい匈奴の手から救はねばならぬとかいふ、哀つぽい愚痴をこぼす者がある。けれども歐洲文化の價値とか、それを救ふ必要とかいふことは、たゞ革命家の唇から聞かれる場合だけ、嚴粛な、價値のあることであつて、一九一四年——一八年の恥づべき虐殺事業敢て組織し援助した人々の口から洩れる時は、たゞ恐ろしい僞善にすぎないのである。

文化の發達といふが、若し此言葉の意味を藝術、科學、技術の發達、及び此發達の時代に棲息する人間を一層人間らしくすることの意味に解するならば、單に數万の人のみならず、何百万の人間が文化事業に參加することによつてその發達が妨げられる筈はないではないか。

三

總ての文學者には必要な豐富な想像力が時に私を驅つて次のやうな質問を起させる。

『レーニンの夢みて居る新社會とはどんなものだらう?』

すると私の前には、自由な人類の勞働に依て、巨大な寶石に作り上げられた美しい地球の幻影が現れる。此新しい世界では總ての人は賢く、何人も自分の作つたもの、及び自分の周圍のあらゆる事物に對して責任を感じて居る。至る所に、美しい田園都市があり、其處には莊嚴な建物が櫛比して居る。至る所、人間の精神に依て征服せられ組織せられた自然の力が、人間の爲めに働いて居り、人間は遂に自然の主人公となつて居る。彼の肉體的精力は、もはや荒つぽい、汚いげ事の爲めに費されず、精神精力に變へられてしまひ、其全力を擧げて人生の根本問題の解決に當らうとする。實に幾千年の間、人間の精神は社會的鬪爭の現象を説明し、是認しようとする必要な勢力の爲めに分裂にせしめられ、さういふ現象のある世界では避けることの出來ぬ、矛盾した二つの原則を承認するが爲めに生ずる悲劇によつて疲勞し切り、人生の根本問題に觸れようとしても、徒らに粉碎さるゝの外は無かつたのである。

技術は高尚となり社會的には公正な取扱を受けるやうになつた時、勞働は人間にとつて快樂となる。人間の智力—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

―宇宙で最も尊い要素――は、自由を得た結果、恐いものはなくなつてしまふ。

勇敢な思考と、政治上の銳利な透察力とは、レーニンの心の最も基礎的な特徴である。世界は未だ曾て、彼の配下の外交團の使用するような言葉は聞いたことが無い。其れは職業的外交家の敏感な耳には我慢の出來ぬような言葉ではあるが、實に赤裸々な、眞實其儘の言葉である。そして眞實といふものは、吾々が眞の事實其物を、吾々の造つた最も美事な眞理の一つである。音樂のように、美しいものに造り變へぬ限り、粗雜たものに留まつて居るに相異ない

私は、レーニンが夢想しても居ないものを、無理に夢想して居るように强ゐたとは信じない、私は自分がレーニンを詩化して居るとは思はない。私はレーニンを思ふ毎に、萬人に取つての未來の幸福、輝やかな、悅ばしい生活に就ての此美しい夢を思はずには居られない。人物が大きければ大きいほど、其抱く夢も大仕掛なものである。

レーニンは現代の何人よりも、より多く人間らしい人である、そして勿論彼は空想家が餘りに『目先に、實際的過ぎる』事とするような、政治上の問題に主として精神を集中しては居るが、なほ私は偶々閑暇を得た時、彼の活動的な心は美しい未來に遠く奔つて、私が想像し得るより遙かに多くの幻影を見て居るに相違ないと思ふ。

レーニンの全生活の根本の目的は、全世界の幸福にある彼は遙か後世に至つて、[illegible]若し吾々が理想家といふ言葉を、或一つの觀念に一切の思ひを集中することをいふとするならば――彼は世界の幸福といふ一事を念とする點に於て、理想家である。レーニンの私生活は宗敎的な時代ならば聖者と呼ばるゝにふさはしい生活である。

私は、此言葉は、氣取つた俗物を怒らせ、多くの同士に微笑を催させ、レーニン其人を哄笑させるだらうと思ふ。『聖者』とは、前革命家チャイコフスキーの言葉の通り『神聖なるものは絕無である』と信じて居るレーニンにとつては、確かに矛盾である。英國保守黨の敎養ある上品な首領チャーチル卿が『最も獰猛な、憎むべき人間』と考へて居る聖レーニン！　けれどもチャーチル卿閣下とても、神聖なる敎會にも獰猛と殘酷とが殆ど付きものであつたことを否むことは出來まい。宗敎會議に於ける敎父達の血まみれの爭ひや、異敎徒裁判其他多くの恐るべき事例は其れを證

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

據立てゝ居る。然るに社會運動の方面に於ては――若し民衆のため、自由のため、眞理のために私心なく、勇敢に盡すことを聖者らしいと云ふならば――眞に聖者らしい人物が澤山出て居るのである。

嚴格な現實主義者で鋭敏な政治家であるレーニンは、次第に傳說的な人物になりかゝつて居る。そして是は當然の事である。印度の僻村から、英國官吏の久しい壓制を感じて居る多くの人々が、山を越え、森を過ぎ、其生命を賭して幾百哩の道を徒步でカブールまで來て、ロシアの布敎師を訪ね、『レーニンとは何んな人ですか』と聞く。又地球の他の一方では、諸威の勞働者が無關心なロシア人に向つて『此レーニンといふ男は實に正直な奴さ、今迄こんな人間にあつた例しが無いぜ』と云ふ。

これは結構なことだと私は敢て云ふ。大抵の人は行動する前にまづ信念をもたねばならぬ。所で人が銘々自分で考へたり、理解したりし始めるのは一寸やそつとの事ではなく殊に資本主義の惡靈は貧困、飮酒、疲勞等によつて、常に益々激しく彼等を壓迫してゐる以上、彼等が一圖に信じ得る人物を得ることは必要である。

レーニンは溫かい友情を感ぜぬ人間ではなく、また一般にそんな事でも人間らしいことなら感じ得る人だといふことを玆に斷つておかねばならぬ。私はこんなことを云ふのをワザとらしい、氣の引ける、バカげたことのようにも思ふが、何分世界中の小ブルジョアは、レーニンの超人間的な智力に怯れ戰き、チャーチルはロシアの空を睨む時、餘り夢中になつてイキリ立つて、身體でも惡くしはせぬかと思ふほどなので、生來親切者の私は、彼等始め一切のレーニンの敵を安心させてやりたく思ふのである。レーニンはよく人を買ひ被つて、運動の上に損害を來すことがある。けれどもレーニンが人を惡く云ふ時には、決して見損ふといふことはない。それは一見根據が薄弱なようでも、必ず後に實證せられるのである。これは人間の缺點が、長所より遙かに多いことを示すものであらう。

彼の嚴正な言葉の中には、時として殆ど女性的な優しさの閃めく時がある。恐怖政策は、たとへ色には出さずとも內心彼には忍び難いことであつたに相異ない。一方の人々の自由のために他方の人々を殺すといふ、兩立し難い矛盾を敢てせねばならぬ運命に出會つた人々が、魂を責めさいなむ苦悶を感じないことは、あり得べきことでも、また考へ得べき事でもない。私はその眼の中に此燃え立つような

苦しみが一生涯刻み込まれてゐる數人の人を知つてゐる。私は本能的に人を殺すことを恐れる。けれども自由の爲めに其れを爲さゞるを得なかつた人々は殉教者である。私の良心は、決して彼等を咎めることを許さない。私はレーニンを論じようとして、自然に他の問題に脫線したことに氣が付いた。しかし一切萬事の中心であり、一切萬事の上に在る人物のことを論ずるに際しには、是も止むを得ぬことである。レーニン共人に就ては、勿論私が玆に云つたよりも遙かに多くのことを述べることが出來る。けれども、微塵も自惚氣のない此人の謙遜さは、私に是以上のことを云はせない。私は玆に云つた僅かの事ですらも、彼には誇張に過ぎた、滑稽な事に見えるに相異ないと思ふ。けれども笑ふなら笑つて貰はう――實際レーニンは實によく笑ふ。が、兎に角、私は此文章に依て利せられる人々の多からんことを希望するものである。私は玆に、農民の八割五分までは只だ氣樂なブルヂョアになりたいと思つて居り、其れ以上何も考へない國で、全歐洲の社會革命に先鞭を着けるだけの勇氣を持つ人物のことを話した。多くの人々は、此大膽不敵を目して狂氣の沙汰として居る。が、この私は、私の事業を始めた人間である。露國民衆に對する自然の憐憫の餘り、私は此激越を罪悪視した時もあつた。けれども、人には正直な自覺的な仕事よりも、忍耐強く苦しむことの方がよいのだといふことを知つた今、

（マキシム・ゴルキイ）（山川菊榮譯）

ボルシエヴイスト動く

私は一生涯、七月四日にペトログラードを襲ふた、怖ろしい物狂はしい光景を忘れないであらう。

小銃や機關銃を、針毛其儘に詰め込み、種々雜多な種類の「革命軍の代表者」を滿載した一臺の貨物自動車が、狂へる野猪のやうに驀進して來た。彼等の間に、みすぼらしい姿をした若者が立ち上つて、ヒステリックな聲で叫ぶ、

兄弟！」

武器を持たぬ、併も未だ思慮を失ふ暇もなかつた冷靜な誰か心靜かに此の嚴めしい怪物を遮り、刺の樣に小銃をも

ぎとつては、其の武裝を解いて居る。武器を失つた兵卒や海兵は群集の間に混り込み、其の中に姿を消してゆく、馬鹿げた空自動車は、凸凹した汚い街の敷石の上を疾走して熱に浮かされた夢の樣に消えて行く。

[illegible]凡ての人から大急ぎで無雜作に片付けられた事、又此の極端に武裝をした人間を街上に驅り出した力は、愚昧と呼ばる可きものである事は明瞭である。

突如、何所かに、銃聲が響く。數百の人々は、恐怖に驅られて八方に奔る暴風に吹き捲られた枯葉のやうに地に倒れる。入り亂れて投げ出される。啼泣する。喚く。

「ブルジョアが發砲した！」

射擊をしたのは、ブルジョアでもなく、又革命に對する恐怖でも無い。革命の爲めの恐怖なのだ。我々は恐怖を持ちすぎる。

恐怖は至る所に――機關銃架に凭る兵卒の腕の中に、引金を引く許りに裝彈された銃やピストルを持つ勞働者の慄える手の中に、又張り裂けるやうに見開かれた眼の、廣がつた瞳の中に、充ち滿ちてゐる。此の人々は自分自身の力を信じてゐないし、又何の爲めに武器を手にして街上に引き出されたかといふことをも知らないでゐると云つて良い

特に甚だしいのは、午後四時頃のネフスキイ街と、リテイニイ街の角に於ける恐怖の有樣である。一中隊の兵士と數百の觀衆が、パルカン料理店から、遠くスナメンスキイ廣場迄、靜かに並んで居た。突然、何か意地の惡い皮肉な魔術師の暗示でも受けた樣に、此の集團は武裝せる者もせざる者も、去勢された羊群其儘に變つて來た。

私は、何か恐怖を解き放したのか、又何が、兵卒を誘惑して、リテイニイ街の角から五番目にあるネフスキー街の家を射擊させたのか、確言出來ない。併し、彼等は、直ちに武器を奪はれるのを恐れるかの樣に、熱病に犯された樣な敏捷さを以て、照準も定めず、此の家の窓や柱を射ち初めたのである。射擊したのは、せい〴〵十人であつた。他の者は、銃も旗も地に投げ棄てゝ、卑怯にも群集の中に加はり、人道の上に狂へる肉塊の山を築きつゝ窓硝子を壞し扉を打ち破り始めた。

街上に投げ棄てられた銃や旗の間を、未だ若い少女がウロ〳〵驅け廻りながら叫んで居た。

「あなた方は、自分の仲間を射つて居るんぢやないか。」

私は、其の少女を、小楯になり相な電柱の後へかくした

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

併し彼女は、怒つて言ふ、
「あなたも叫んで、自分達の仲間の者を、――」
もう、皆姿を消して居た、或る者はリテイニィ街やウラチイミルスキイ街の方に奔り、或者は自分達に打ち壞された破口の中に這ひ込んで行つた。街路の鋪石の上には、小銃や頭巾や軍帽が散亂し、汚ない木煉瓦は赤旗の切れ端で覆はれて居た。

私は旣に多くの恐怖を經驗した。併し、未だこんな息の詰まる樣な恐ろしい印象を受けたことはない。

これが、自分自身の影に戰慄した一時間前まで、「奮世界とは緣を切り」、兩足から「彼等の塵」を拂ひ落してゐた「自由な」ロシア國民のか？、自分自身の銃彈に逃げ奔り、銃を投げ棄てゝ、人道を這ひ廻つたのが革命軍の兵卒なのか？

此の國民は、自己の人格の、又人間としての、價値意識を獲るためには。まだ大いに働かなければならぬ。まだ〳〵文化の鮮かな火に洗練され、母の乳と共に吸ひ込んだ奴隷の精神から淨められねばならぬ。

『復、文化か？』（と言ふか）然り、再び文化を口にする。私の知るところでは、祖國を滅亡より救ひ得るものは、これを措いて他にはないのだ。私は確信する。若し、責任と危險に對する恐怖から、何所にか安閑と身を潛めて、快げに時事を批評してゐる我が知識階級が――此のインテリゲンチヤが、自由の第一日に於て、直ちに、打たれた鼓舞せられた本能の混沌たる中に、新しい理想を揭げ、新しい秩序の感情を呼び覺さうと試みさへしたならば、我々は今日經驗する樣な多くの嫌忌すべき事を、味はふ必要はなかつただらう。若し革命が、最初の瞬間にすぐ緊張した文化事業を起す事が出來ぬならば、革命は私の見るところを以てすれば、效果なきものであり、意味無きものである。そして我々は生活能力のない國民にならねばならぬ。

多くの無恥なる輩は、以上の記事を讀んで快げに叫ぶだらう。

『イヤ、七月四日のレーニン黨の演じた役目に就いては、お前は、何も言はぬがいゝ！ 此の僞善者奴が！」と。

私は探偵では無い。そして誰が此の恐る可き演劇の最大責任者であるかを知らない。私は政治的恐怖劇を說明する積りでは無い。私は、如何なる名を其の男が持たうが、又曾て祖國に對して如何なる功績があらうが、民衆の中に最も陰闇な本能を呼び醒した人間を、憎惡し且つ侮蔑する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は、七月四日の事變が、外國からの派遣者に依つて煽動されたのだと言ふやうなことも恐らく有り得ることだと思ふ。併し破壞の喜悅といふことが、或る人々を驅つて、此の事變に赴かしめたものであると言ふ事も亦、最も推察し得べきことであると思ふ。革命、自由、又其兩者に對する自分の愛着を口にする人間が多い。併し彼等の言葉は自分の品物を能ふ限りの利益を以て賣りたいもんだと言ふ實業家の樂しげな言葉を想ひ出させる。

私は此の演劇の最大責任者がレーニン黨だとは思はない。それはドイツ人でもなく間諜でもなく、頑固な反革命主義者でも無い、其れは更に戰慄す可き更に强力なる敵——我々の重苦しいあくまでもロシア的な『愚昧』である。

七月四日の劇に就いては、我々の愚かしさが、他の如何なる力よりも重い責を擔はねばならない。此の愚昧を、併し非文化と呼ばふとも歷史的本能の缺如と言はうともそれは、諸君の勝手であるが。(マキシム・ゴルキイ)

——一九一七 七・一四——

レーニンの實驗

ウラヂミル・レーニンはネチヤイエフの『沼澤を全速力で』といふ處方書に從つて、ロシアに、社會主義的政治形式を輸入した。

レーニン・トロツキー、及び彼等が現實といふ沼澤の底へ沈み行く時の伴侶とした人々は自分自身にとつて不名譽な事は、却つて有利なのであると言ふ意識を持つ時は、ロシア人を征服するのは頗る容易である』と、明らかに信じて、冷酷にも、革命の尊嚴を傷付け、勞働者をして、凄慘な戮殺や屠殺を計畫させ、ヌカルタショフ、ペルナツキイ、コノナロフ其他の如き無罪の人達を投獄せしめて、勞働者階級をも汚辱したのだ。

レーニンや其の黨派は、プロレタリアをして新聞紙自由の廢棄に贊同せしめ、以て、新聞紙の口を欲する反民主主義者の犯刑を法律と言ふ强力なものにした。又此の指導者レーニン トロツキーの專制に同意しない人々を悉く飢餓と虐殺とで威赫しつゝ我國の最も善良な志士達が長い間反抗し來つた暴力による專制を承認させて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

レーニン、トロツキー兩氏に從ふ『門下と愚衆の從順は既に其の極に達した。』彼等は、背後に於て、指導者を侮辱し、或る時は之を見棄て、復直ちに之に與したりしながら而も結局此の獨裁者の意志にのみ奉仕し、兵卒及勞働者の最も憂鬱な集團の中に、氣樂な生活に對する實現不可能な希望を呼び醒すのである。

レーニンを目して社會主義のナポレオンなりとする彼の追隨者は、激し狂つてロシアの壞滅を遂行する、併もロシア國民は血の流を以て其れを償はなければならぬ。

レーニン其人は勿論特異なる力の人である。二十五年が間、彼は社會主義をして最後の勝利者たらしめんとする戰士の第一線に立つて居た。彼は國際社會主義黨の最も重要な又最も傑出せる人物中の一人である。彼は偉大なる才能と、指導者に必要な凡ての資質とを備へて居る。と同時に彼を顯著ならしむるものは亦、此の役目に缺く可からざる道德性の缺如と、民衆の生活に對する無慈悲なる態度である！

レーニンは、指導者であると同時に、ロシアの大親分である。此の壞滅に歸せんとする狀態の二三の精神的特質は彼には不案内なものでは無い。然も彼は既に豫め失敗と定められて居る殘酷な實驗を、ロシア國民と共に計畫する事も、正しいと考へて居る。

戰爭に依つて困憊し破滅した國民は、既に此の實驗のために數千の生靈を支拂つた。而も猶數万の生命は費されねばならない、斯くてまだ〱長い間『首が刎ねられる』事であらう。

此の不斷の悲劇も、教義の奴隸たるレーニンや、其の奴隸たる彼の徒黨の心を少しも擾さないのだ。複雜を極めた人生に就いては彼は全く不案内なものである。彼は民衆を知らない。彼は、曾て國民の間に生活した事が無い。併し彼は、如何にして民衆を、狂暴ならしめるか、又如何にして民衆の本能に鞭打つ可きかを書籍によつて知つた。勞働者階級は、彼に取つて、冶金技師に對する鑛石の如きものである。一體此の鑛石から、現實的な凡ての條件の下に社會主義的國家を溶し出す事が出來るのであるか？ 見た所、其れは全く不可能である。併し何故其れを試みなければならぬのか？ 若し實驗が失敗した曉、レーニンは敢て如何にしようとするのか？

彼は實驗室に於ける化學者の如く働いて居る、併し、化學者は死せる材料を利用して、而も人生に價値多き結果を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

得て居るのに、レーニンは生きたる材料を以て、而も革命を破滅せしめた。彼に從ふ階級意識に目醒めた勞働者は、ロシア革命の正則な發展を永久に沮む可き實驗が爲されつゝある事を、理解しなければならぬ。（マキシム・ゴルキイ）

――一九一七・一一・一〇――

知識階級と無識者との鬪爭

革命を『深めた人々の制御する所ない煽動政治は、勞働者階級中、自覺し啓蒙された社會利益の代表者に取つて、破壞的な結果を齎した。工場に於て、作業場に於て、既に無意識者と、熟練勞働者との間には、激烈な鬪爭が開始された。無識者は既に、錠前工、旋盤工、鑄工等は『ブルジョア』であると主張する。

。其の結果はたゞ、勞働者の生きた身體に實驗を爲す人々の名譽を大ならしむるのみである

併し、悲壯な原因を理解する勞働者は、革命の運命に對する、限り無き憂慮に滿たされてゐる。

『私は』と彼等の一人が私に書いて居る。『ボリシエヴィズムに何等の滿足をも得られなかつた民衆が、より良き未來並に社會主義に對する信仰を失ひ、再び眼を憂欝な過去の時代に投げて、君主政治に注意を集めて行く日も、もはや遠くはないのではないかと思ふ。しかも其の時には、民衆の解放の爲めの戰は、更に數百年間不可能なものにされる事でせう。』

『ボリシエヴイズムは無識者の集團の希望を滿足さし得ないから、此の事は起るに違ひないと私は信ずる。而も、此の群集の眞中にある我々は、革命に對する信仰・現世に於けるよりもよき生活に對する信仰、を破壞より獲るが爲めに、何事を爲す可きかさへ知らずに居るのである。』と他の勞働者が書いた。

無智なる民衆の中に於ける、幾分智識ある勞働者の地位は、自分の兄弟の間に居て、あかの他人の樣な思をする人の境遇其儘である。然るに、他の勞働者は又、私に斯く言つて居る。

『兄弟、プロレタリアの勝つた事を喜んで呉れ。』と。

私は、何も喜ぶ可き理由を持たない。プロレタリアは何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人をも、又何物をも征服してはゐない。恰も、彼等が警察政治に咽喉首を抑へられて居た時、猶征服されずに居た樣に、彼等自身ブルジョアジーの首を摑んだ今日、ブルジョアジーも亦猶未だ征服されては居ないのである。思想は一般に、暴力によつて克復し得られるものでは無い。勝利者は普通——恐らく疲れて居るからでもあらうが——寛大なものである。併し、プロレタリアは、かのバニナ、ボルデイリヨフ、コノワロフ、ペルナツキイ、カルタショフ、ドルゴルキイ等を何の理由もなく牢獄に呻吟させておくのだからして、決して寛大では無い。

上に名を擧けた人々の外に牢獄には幾千の、然り幾千の而も勞働者、兵卒が飢えつゝある。

然り、プロレタリアは寛容でもなく、又正義に適つてもゐない！　併も、革命は國內に最高の正義を確定しなければならなかつた筈なのだ。

プロレタリアは勝利を得てはゐない。內亂は全國に荒れ狂つて居る。百千の人々は互に殺戮し合つて居る。狂氣せる人々は『ブルジョアを打ち殺せ！』『カレヂン黨を打ち殺せ！』とプラウダ紙上に叫ぶ。併し、ブルジョアもカレヂン黨も同じ農民であり、勞働者なのだ。彼等は殺戮せられる、而も彼等は彼等で赤衞兵を屠殺する。

而も其の內亂たるやレーニンがミリユウコフの短かいブルジョア然たる頭髮を引きつかみ、ミリコウコフがレーニンの亂髮を引張つて居ると言ふだけの內容に過ぎぬとは！

『どうか、喧嘩して吳れ、親分。』

併し、摑み合つて居るのは、主人ではなくて奴僕である。そして、此の喧嘩はすぐに止む喧嘩だといふことを推測す可き何等の根據も無い。——國家の最も健全な分子が壞滅し、互に殺戮し合つてゐるのを見て、何うして、我々は喜ばなければならないか？一方、街から街へ數十の人々が續いて行く。そして、恰も自分自身を嘲けるかのやうに叫ぶ

『平和萬歲！』

民衆が銀行を占領した？　若し銀行內に少くとも子供達を滿足させる丈のパンが貯藏されてゞもあるならそれもよからう。併し銀行には一片のパンも無い。兒童は餓えて居る。彼等の間に、死者は日一日と增加して行く。

內亂は、鐵道を不具ならしめた。たとへ農民がパンを給與し得ても、其を直ちに都市に齎す事は出來ない。

併し、私を最も恐れさし且つ驚かす所のものは、革命が人類の精神的再生の徵候を全く齎らさない事，革命は、人

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

類を誠實にもしなければ、彼等の自尊心、彼等の勞働の道德的尊重を少しも昂揚せしめぬ事である。

勿論、傲岸な、正に敵を打ち負かした職業力士を思ひ出させる樣な人間もある。併しそんな人間は語る甲斐も無い。併し、一般に、民衆に就いて、革命は人間の社會的感情を昂揚せしめたときは認め得ない。人類の生活は、前同樣低く評價されて居る。古い政治の習慣は消え去つてはゐない。新政府は前同樣粗野であり、更に斯の如き劣惡な態度さへ示して居る。吾々は新しい警察管理の內へ踏み込んで行つて前同樣美事に蹴つまづく。新役人は同樣に、尊大なるそして人々を牢獄に追ひやる凡て、古きもの、憎惡す可きものは、猶まだ消滅しない。

其れは凶兆である。其は暴力が只押進んだだけである事を證する。併し、斯の如き驀進は、精神的力の成長を促す事は出來ない。

生活の眞意義も、凡て生活の平凡事の說明も、凡ての精神的力及び能力の發展の中にのみ在り得るのである。

『まだ其の事を話すのは早い。我々は先づ凡ての力を我々の手に收めなければならぬ。』

自己の同胞の上に加へられる暴力より、更に卑しむべき害毒はない。——我々は、犯力に依つて毒されぬ樣に、又我々が生涯戰ひ來つた敵よりも更に憎む可き食人鬼たらざる樣に、常に此の事を考へて居なければならぬ。（マキシム・ゴルキイ）

……一九一七・一二・九——

社會革命黨裁判に就て
アナトル・フランスへ

ゴルキイは露細亞に於ける社會黨の處刑に反對するため、左の手紙をアナトール・フランスへ送つた。

畏見フランス、

ロシア社會革命黨に對する裁判は、今までロシアの民衆解放問題のために實直な努力をつくして來た人々を殺すための公けの準備の皮肉な性質を帶びて來ました。

私は今あなたに對し、敢て一つのことをお願ひしたいと思ひます。それは、あなたから、この罪惡の犯すべからざるものであることを、も一度ソヴィエット政府に了解さしてやつて戴きたいといふことです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あなたの權威ある言葉によつて、恐らくは社會革命黨員の命を救ふことが出來るかも知れません。

猶ほ、別紙にて同封致しおきましたものはこの手紙と一緒に、ソヴイエツト政府代表者の一人に出したものです。

（マキシム・ゴルキイ）

別紙（人氏委員アレキシスイヴーノ井ツチリーコフに當へたもの）

アレキシス、イヴーノ井ツチ、

社會革命黨員の裁判が、若し死刑の宣言によつて終るやうであつたなれば、それは一の謀殺であり、一の破廉耻なる殺人だ。

僕の意見をトロツキー及び其の他の諸君に知らして貰ひたい。未開化な文盲者の我が國に於て、智識階級の勢力を根絶することの無意味と罪惡とを、全革命時期を通じて、幾千回となくソヴイエツト政府に注意して來た僕だ。その僕が今、前に云つたやうな意見を述べたからつて、君達は今更不思議には思ふまい。

若しも社會革命員が殺戮されるならば、その結査としてロシアはヨーロッパの社會主義者から無形の封鎖を受けるものであることを、僕は今確信してゐる。

（マキシム・ゴルキイ）

アナトル・フランスの來露を促す

上記マキシム・ゴルキイの書簡に對し、モスコー政府は直ちに左の如くアナトル・フランスへ打電した。

パリ・リ・ユトニテ社氣付
アナトル・フランス宛

貴下は貴下の純白さを爲にせんとした一方のみの報告を信ぜられて、被告社會革命黨員のためにソヴイエツト政府に對し、仲裁の擧に出でられんとしてゐるのでありますから、本政府はこゝに、貴下がこの公判に列席されんことを望みます。ソヴイエツト政府は欣んで貴下を迎へるでありませう、尚又在モスコー、フランス共産黨代表著諸君も、ロシアのプロレタリア政府と共にこの要請をなすものであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

六月五日

モスコー　ジノヴイエフ

フロサアル

マキシム・ゴルキイと ロシア革命

ゴルキイ書簡は七月初旬第二半インタナショナルの機關「ル・ポピュレール」紙に發表され、續いて色々なブル黨の新聞に轉載された。そこで共產黨の闘士ラデックが、眞正面からゴルキイに浴びせかけたのが左の一文である。

巴里の『ル・ポピュレール』紙は、エス・エル（社會革命黨）の審判について、有名なロシアの詩人マキシム・ゴルキイが、それに劣らず有名なフランスの詩人アナトル・フランスに宛てた一の書簡を公けにした。ゴルキイは記してゐる「エス・エルに對する裁判は、今までロシアの民衆解放問題のために實直な努力をつくして來た人々を殺すための公けの準備の、皮肉な性質を帶びて來た。」同時にゴルキイは、ロシア共產黨中央委員會の一員、同志リコフに宛てた書簡を公表した、その中で彼は、「未開化なる文盲者の我國に於てインテリゲンチアの勢力を根絶することの無意味と罪惡とを、全革命時期を通じて幾千回となくサヴエート政府に注意した」ことを擧げてゐる。

ロシア勞働者は、何糞と云つて此の書簡についての議事日程に移るだらう。立派な音樂家だ、が出來の惡い政治家だと、彼らはゴルキイについて云ふだらう、何故ならば彼等はゴルキイを非常によく知つてゐるから。ゴルキイは第二革命の全期間を通じて格外に動搖的な態度を取つた。動搖が彼の態度を一貫する唯一のものであつた。三月革命の間彼は、ブルヂョアジイとの聯立に反對した『ノワヤ・シズン』新聞の發行者だつた。ところがメンシエヰキイとエス・エルとが、ブルヂョアジイと斷絶することを好まず、そのためにケレンスキイ政府の倒壞を招致したときは、ゴルキイは十一月革命の敵だつた。彼の立場は此うだつた、――ブルヂョア政治は惡い、ブルヂョアジイとの聯立も亦た惡い、プロレタリア政治もまた惡い。彼自身が此の立場を代表した所の論説は、ドイツ王黨の指導的機關『南ドイツ月報』の分離册として發行された。――多分それは、一切事物の無常から見てユンケル的・王制政治が最上のもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だと云ふことを教へるためだつたらう。外國の干渉が始まり、ゴルキイが野獸の群れを呼んでゐるロシアの勞働者と農民とが、英雄的な三年間の戰鬪で國の獨立と十一月革命の占領とを擁護したときは、ゴルキイはサヴェート政府の味方に附いて、レニンについて有名な論文を發表した。その中で彼は此の事件を說明して、レニンはどうしても嵐鳥の詩人であるからこの「英雄的な實驗」をせずには居れなかつたのだと云ふ風に解釋した。ところが同時にゴルキイは、サヴェート共和國が困難な生存戰に於て「インテリゲンチア」出の敵を手柔かに取扱ふわけに行かなかつた場合には、きまつて泣きごとを云つた。數ケ月以來ゴルキイは外國にあつて、脈動するロシア生活との一切の聯絡を絕ちヒステリイ的な男女文人の朋黨に圍まれてゐる。そして偶々旅行中のロシア共產黨員を捉へて、胸一杯の戰鬪精神で語り通しながら一夕を見過す事ができないときは、今度はブルヂョア新聞を引見して、ロシア農民をノア洪水以前の人間として說き聞かせ、およそ厭世觀に充ちたインタヴィウを與へる。ロシアの勞働者なら之を讀んで肩を聳やかす何故なら彼らは彼らのアレキセイ・マキシミソチ（註一）と彼の移り氣とを知り拔いて居るから。ところが外國の勞働者は、マキシム・ゴルキイを革命的詩人としてのみ知つてゐるに過ぎないので、彼の判斷は彼らに對して或る勢力をもつてゐる、と云ふのは、彼らは、ゴルキイの動搖の源が彼の本性と彼の生長とに基いてゐることを知らないからだ次の言葉は、この外國の勞働者のために書いたものである

ゴルキイは、エス・エルが「ロシアの民衆解放の問題のために實直な努力をつくして來た」ことを證明してゐる。詩人としての彼にとつて興味を惹くものは、實直に且つ裸のまゝに神によつて造られた限りの個々の人間である。詩人は偉大で完全な一切の强い人格に同情をもつことができるシエクスピアを讀めば、彼の主人公は選り拔きの惡漢團であり、その中の一人として共產黨に屬してゐる樣なものはなく、シエクスピアが描いてゐる唯一の革命家ジョン・ケードは作者によつて酷どく侮辱されてゐる。ところが吾々が、舞臺の上でシエクスピアの悲劇的主人公を見る場合はそれに對して彼らが身をさゝげて來た目標は問題にしないで、彼らをその人間的な偉大さと强さとに於て考へて感動する。デニキンの書物を讀めば、人はまた之に劣らず感動する。そして指導的ロシア王制主義者の一人シュルキンの書物、『一九二〇年』は、このツアー的王制的ロシアの擁護

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者の實直と內部的潔白との、感動すべき記錄である。そして又、死滅しつゝある事物と社會秩序の特權のために戰つてゐる場合に、自分らの民衆の解放の問題のためにつくしてゐるのだと、實直に信じ切つてゐる幾千と云ふ王制主義者が、ロシアにもドイツにもゐることは、全く疑ひを容れない。エス・エルは、啻にツアー主義からのロシア民衆の解放の問題のために實直に戰つて來たばかりではなく、確かに今以て、社會主義の問題のために戰つてゐると實直に信じ切つてゐる。しかしそれだからと云つて、聯合國から供給された金のために聯合國から供給された武器で幾千となく擊ら殺された勞働者がのために生きかへるだらうか？エス・エルの審判に際して、一人の無黨派の郵便局長が現れて、エス・エルの首領の被告ゴーツに向つて次の言葉で訴へた、「郵便局長は彼らの組合のために、一軒の大きな家をサヴエート政府から貰つた。この家は被告ゴーツの叔父の、綠茶成金キッツキイのものだ。ゴーツの考へでは、彼の黨派が勝利を獲た曉には此の家を郵便局長から取り上げて、彼の叔父に返してしやるつもりだらうか？」――この卒直な問ひは、長々しい理論的な論文以上に、實直なエス・エルの社會的意義を明かにする。たしかに彼らは實直であり彼らの政策の正鵠を確信してゐる。しかしこのことは、エス・エルがブルヂョアジイの利益の擁護者だと云ふ事實を變へるものではない。このことはロシアに於けるあらゆる勞働者が理解して居り、ロシア反革命の慘じめな主人公たちの實直さなどは惡魔に喰はせて、彼らは次のやうに叫ぶ――この黨派は勞働民衆の利益の敵だから滅ぼさねばならぬ、そして彼らの幻想――そこに彼らの實直が存する――はこの黨派を一層危險なものにする、何故ならこの幻想は革命の旗印の下に反革命の事柄を擁護すること以外の何ものをも意味しないから。

貧弱な文盲者の國で知識分子を根絕する、それは罪惡ではないか？――とゴルキイは問ふ。ツアー、ツアーの大臣ブルヂョア、地主貴族、彼らはもとよりリアザンの農民よりも遙かに敎養があつた、それにも拘らず彼らは、この農民が依然として文盲者である點で罪がある。もしロシア・サヴエート政府が倒れたなら、權力にありついた物識りの白衞隊どもは、民衆の開發以外のことに氣を遣ふだらう、彼らは民衆を愚にしやうとかゝるだらう。これによつて、文盲に對する戰ひは、ロシアの文盲者の頭の啓發には存せずして、却つて此う云ふ事情では、ブルヂョアジイの支配

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そ再び樹立しやうと欲してゐる、又は欲しなくとも事實そうしてゐる極めて教養ある反革命の代表者どもの頭を切ることに存することが分かる。ゴルキイは干渉に對する戰ひで、「インテリゲンチア」から成る何千と云ふロシア人が赤軍の機關銃で滅されたことを云々した。その場合何故に彼は憐れな文盲者のことを配慮しなかつたか？エス・エルが讀み書きを學んで居り、その上にフランスの詩を翻譯することができるなどと云ふ議論でエス・エルを擁護することは、滑稽な企てだ。

何故にゴルキイはこの一切が分らないのか？ゴルキイは小ブルヂョア的階級の出だ。彼は永らくの間、彼の最良の小説の對象を成してゐる襤褸プロレタリア的分子の間に生活してゐた。彼は獨力で、最大の犧牲を拂つて、彼が今所有してゐる教養を獲得したのだ。そして彼は、屢〻獨學者にその例を見るやうに、教養ある俗物となつたのだ。何十年の間一冊の書物を買ふために一片のパンを口から捲り取つて、――半夜、慘じめな屋根裏の蠟燭の光で、天文學必携書ダーキンや、リーペルトの文明史に讀み耽つたのち辛やく獲た僅かばかりの知識を、世界中の何ものよりも上に置いてゐる勞働者の如何に多いことよ。勞働階級の此の物識りのラビたちは、彼らの仲間から離れて、教化事業を階級鬪爭以上のものに考へてゐる。此う云ふ畸人は全世界到るところにゐるものだ。

ゴルキイの場合は、問題は次のことによつて尚ほ込み入つてくる、即ち、あらゆる勞働の前に跪くゴルキイの教養的俗物精神に對して、ゴルキイは全然ロシヤの產業勞働者の環境に根を置いてゐないと云ふ事實が結び付いてゐることである。過去に於ては彼は、小ブルヂョア的襤褸プロレタリア的環境に根を置いてゐた。この環境だけを彼は藝術的に如實に描く。ところが彼の小説『母』に於けるやうに偶〻勞働者が出てくれば、キッチのやうな人物を描く、謂はゞ、もやもやした民衆の上に巨人のやうに身をもたげてゐる、精神主義的インテリゲンチアになつた勞働者だ。この民衆をゴルキイは決して描くことを知らない。民衆は彼にとつては、捏ねられる蠟だ。彼らに對してはゴルキイは、完全に精神的にエス・エルの立場、――英雄と民衆、――しかし自ら滿足してゐる民衆――と云ふ立場で對する。

彼の教養的俗物精神から、その中にゴルキイが何ら人間的なものを認めてゐない所の農民に對する彼の憎惡が生れる。十一月革命が勃發したとき、彼は、この革命はロシア

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に於ける農民の優勢によつて、ロシヤ文化の完全な纖絶を以て終るに相違ないと確信した。そのために彼は十一月革命の敵だつた。彼は解放戰に於て農民を導く勞働者の力を信じなかつた。こんなことのできる人間は、ニユーコームの『天文學』を讀み、『フアウスト』第二部を解釋できる人間だけだと考へてゐた。ところが勞働者は、たとひそれは戰爭の常として多くの文化價値を紛碎したとは云へ、偉大なるロシアの新民衆文化のための諸條件を造り出す戰ひに、農民を導く能力のあつたことを證據だてた。ゴルキイはこの事を一寸の間は理解したが、彼の頭の中には、勞働者の沒敎化性と農民の敎化不能性とに對する大きな懸念が依然とし殘つてゐる。農民に對する彼の反革命的論說は此のためであり、知識分子が聯合國と結んでロシア革命を闇打ちしやうとした丁度その時に「おゝ、知識分子を擁護せよ!」と云つた彼のヒステリイ的叫びも亦た此のためである。

ゴルキイは、彼のヒステリイ的男文學者と文學的女ヒステリイと一諸に伯林に棲んでゐる。彼はロシアで發行される新聞は何一つ讀まずに、外國で發行されてゐる、ありとあらゆる噓と僞とで固めた白衞隊の新聞を讀んでゐる。彼の一切の小ブルヂョア的本能が增長して、彼に彼の書簡を口投する。今、もしもゴルキイがロシアに歸つて再びロシア生活の中に立ち、權利を奪はれ搾取された民衆を踏臺にする弱々しいブルヂョア文化に復歸しやうとは思はずに却つて眞實に新しい文化に進まうとしてゐる一切の知識分子と一諸に、戰ひつゝある農民と勞働者と一諸に、サヴエート政府が實行してゐる事業を見るならば、彼は——之まで屢々あつたやうに——再び當惑の微笑を泛べて言ふだらうそうだ、君たちこそ良く知つてゐるのだ、私は政治のことはちつとも分かつてゐない! 吾々は彼に答へるだらう、それでよろしい、人は人間をあるがまゝに見なければならぬ、詩人を見る場合は倘更のことだ。しかしその詩人もまた、——出たらめを詩で書いて、それを詩の新形式だと說明することができるなら格別だが、——徒らに出たらめを書く權利を濫用すべきではない。

（カアル・ラデック）

註二。マキシム・ゴルキイの本名。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女詩人

村松正俊

あなたはほんとうにサプフォの生れがはりですな（女詩人！）
おそろひで洋製は實に見事！　見事！
東京中の人はみんなあなたを讃美してゐますよ。
あなたの骨息がどんなに荒いかを知らないから。
でも人間の影といふものは奇妙なものですな。
ニイチェを呼んで來ませうか、あなたのお嫌ひな……
さうしてお高く止つてゐると若い牡詩人がよつて來ますよ。
みんなシモーニデースを讀んだことがないのですからね
だが日本は死にかかつてゐます、詩な人ぞ止して下さい
世界の波はものをいはない底にうごめいてゐます。
それを輕蔑し切つたあなたは偉い、偉い、また幸福ですよ。
搾取者の恥辱の上に寄生してゐるとは誰のいひぐさです
失敬な、物をわきまへない連中は駄目ですな、……だが
あなたを崇拜するとは藝術家なんて手合も中々眼がきくと見えますね。

敵を呪ふ詩

松本淳三

にくい、あん畜生をひつつかまへて
阿片をしこたま飲ませてやれ
泥を七升食はせてやれ
バットを五本、五百本
一緒にたばねて吸はせてやれ
めまひでくら〳〵空中に
とんぼ返りを打たせてやれ
それがすんだら大道へ
銀座の敷石へ落してやれ
腰が拔けても動くなら
くさつた月經を頭から
いゝ、めくらになるほどぶつかけて
地獄——赤鬼に食はせてやれ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

赤列車

五九郎の代數

武林無想

$B+D : P-D = B : P$ ……Ⅰ

$\dfrac{B+D}{P-D} = \dfrac{B}{P}$ ……Ⅱ

$PB-PD = PB-BD$ ……Ⅲ

$PD = BD$ ……Ⅳ

$P = -B$ ……Ⅴ

$P+B = 0$ ……Ⅵ

Bはブル、Pはプロ、Dは獨裁。かういふ式をいくつと雜誌「解放」の「權力否定の研究」に應じて・一文を送つたがどうやら沒書になつたらしい。「解放」で價値なしと認めたものが、「種蒔く人」で價値ありと認めるかどうか分らぬけれど、階級鬪爭をもつて、凡ゆる思想運動に裏付けようとしつゝあるグループの機關雜誌だから・或は活字にしてくれるかも知れんと思つて、例の五九郎式期待で、この式の說明から仲間入りをさせて貰ふ。

1式は勞資對立の關係だ。資本獨裁の現狀だ。それゆゑBにはDが＋だが、PにはDが－だ。それが活動してII式となる。直ちにDの爭奪戰となつて、III式に變ずる。アチラでも、コチラでも、BとPとが取組み合つてゐる。死傷算なしで。IV式が結果する。即ち双方ともDを脇挾んで塹濠の對立となる。爰で注意すべきは、この期に及ぶと、Dの正負は地位を代へて、Pの方が＋を抱き、Bの方が－を抱いてゐる。さうなつて見ると、PにとつてはDを固守する必要がなくなる。從つてBもDの甚だ無意味なものだつた事に氣がつく。Bが全く降伏する。V式だ。人類がDの獲得を根本的に解說した曉は、同時にそれがPとBとの階級が痕跡も殘さず徹廢された時だ。即ちVI式だ。

×

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝國を倒して、愛國的ブルジョアジイの共和國を双肩に擔つて、ヨロ〳〵しつゝあつたメンシエヰキから『亡國』だとか、『覆滅』だとか、『革命の脊に匕首を刺す。』だとか、さん〴〵に罵られたボリシエヰキは、これから後の全世界の人類が、必ず記憶しなければならぬところの、一千九百十七年十一月七日、地球上に於いて[redacted]さうしてその創建の歐綱は、

平和。

パン。

土 地。

たつたこの三語きりだ。[redacted]スモルニイ館は新人生の發祥地だ。

×

高天原で八百萬の神々がドツと笑つたやうに、世界中のブルジョア共は、腹を抱へて、この單純極まるプログラムを嘲笑した。三日天下サ。三日はすぎた。一週間サ。一週間はすぎた。二ケ月サ。二ケ月はすぎだ。一年はすぎだ。二年はすぎた。さうしていつの間にか滿五年はすぎて了つた。もう笑つてもゐられなくなつた。[redacted]、風が少し强すざて、揚子江位何の苦もなく飛越しさうな火事だ。但し、無產者には、さうしたクレマトリウムのやうな、法華譬喩品のやうな、古今未曾有の大業火が降つて湧いたところで、別段恐ろしくも何ともないのだ不思議だ。その笑だ。無產者は火事位にあつたつて、何にも損をする氣遣ひがないからだ。恐らくコウカサスへくゝりつけられた、その火を盜んだプロメシアスの手足を縛したやうな、堅牢きはまる鐵鎖まで丸燒き切れて了ふ位のものだらうから。

「傍人主義者」

青野季吉

革命モスクワの一少女が、白いウラヂヴオストツクへやつて來た。彼女は魂のぬけるほど驚いてしまつた。いつたいこれは人間の世界だらうか? あちらでは、誰もそんなに腹が一杯になつてゐるわけではないが、誰も彼も同じやうに食つて行つて、よけい食ひ過ぎてゐる者もない代りに

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腹か空いてよろ〳〵してゐる著もないのに、こゝでは、商い家のガラスの箱の中にパンがドッサリ晝寢をしてゐると思ふと、往來には腹の空いてガツガツした者が、片隅にうづくまつてゐる。これはいつたい人間の世界だらうか？

こんな話が近着のロシアの新聞に出てゐたさうだ。これを僕に話してくれた日本のペチ・ブルヂョアは、これは「驚く可き」ドキュメントだと、本統に心から驚いてゐるらしかつた。僕たちには別に驚く可きことではないのだが。

ジヤツク・ロンドンの「アダム以前」だつたかと思ふが、こんな爭が描いてあつたのを覺えてゐる。今の人間が眠つてゐる時、どうかするとドシンと下へ落つこちたやうな夢を見て、目が醒める。あれは、「世界が若かつた時」、人間が――實は猿だつたらう――樹の上に棲つてゐた。そしていつも落ちはしまいか落ちはしまいかと、不安に襲はれてゐた。その原始的の不安が三千年後の今になつても、人間の心の隅つこに殘つてゐて、どうかするとよみがてつて來るのだ。とこんなことはどうでもいいが、今日の土にひつついた人間が、ひよつこり何處かで樹の上のさうした人間に出あつたら、これはいつたい人間の世界だらうか？とアキレてしまふにひ異ない。

先刻の赤いモスクワの少女の驚きと、この場合の人間の驚きとに、どれだけの差があるだらう！

三千年の進化の歷史も人間の歷史なら、革命の五年も人間の歷史だ。たゞ異ふところは、人間の歷史は、五年間に三千年の仕事も出來るものだ、と云ふことだけだ。

人間の社會の「制度」はいくらでも變へることが出來る――實はこれが一番困難なのだが――しかし、人間の「心靈」は容易に變へることは出來ない。「心靈」が入れ變らなければ、いくら「制度」をわいわい言つたつて仕方がない。……こんなことを言ふ人間が澤山ゐる。

文壇の精神主義者などゝ言ふ者は、たいていこれだ。そして何かしら貴い、偉大なものゝために奉仕してゐるつもりでゐる。「自然主義前派」と云ふ言葉が一頃流行したが、こんな精神主義者こそ自然主義前派――盛り切れるだけ輕蔑の意味を盛つて――だ。まだ人間の苦しみも、社會の苦しみも、本統に味つて見たこともないし考へて見たこともなく、これを眼前にどうしやうと焦つたこともないから、そんな呑氣なことが言へるのだ。

無産階級の藝術家だと言つてヂョルヂ・ソレルが大いに推稱してゐるルシヤン、ジヤンの小說――新らしい神話―

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一にこんなのがある。一人の男が宴會からの歸り途、溝へ落つこちた。最初にそこを通りかゝつたのは一人の百姓だ彼は、「君はそんなに醉つぱらはなければ、家へ歸れたのぢないか」と言つて、サツサと業つてしまつた。煙草をスパスパやりながら。二番目にやつて來たのは詩人だ。彼はジツとその場の光景を凝視して、「溝にはまつた不幸な男」と云ふ詩を考へて、これもサツサと行つてしまつた、その次にはモリエルの喜劇に出て來るやうな、三人の哲學者がやつて來た。第一の哲學者は云ふ。この男が溝へはまつたのは、神の懲罰か試練かだ。だから此男はそうしてゐて神の意志を知るがいい。第二の哲學者は云ふ。これはみんな自然法によることだ。みんな定め事なのだから、どうしやうたつて無駄なことだ。第三の哲學者は溝の中の男に云ふ。人間に必要な唯一の知識はわれわれの心靈に關する知識だ……お前は、お前がみぢめな狀態にあることを自ら知つてゐる。それは此上ないよい事た。そして三人の哲學者はサツサと行つて仕舞つた。次には職業的慈善家が來た……來る者も來る者も、いゝ加減なことを言つてサツサと行つてしまふ。結局、いちばん苦しくて、一刻も早くどうにかしなければをれぬ溝の中の男が、苦しい目をして溝を匍ひ出した。……(「溝に落ちた人」)

その詩人や三人の哲學者は、今日の日本の文壇なら、立派に精神主義者で通つて行ける。そしてモリエルの喜劇の主人公のやうに、眞面目くさつて、大手を振つて、本人御存じ無しで、喜劇をやる。

喜劇役者たちは、百千萬年大平主義で、精神の進化を樂しむがいい。

批評

『勞農ロシヤ承認問題批判』の批判

十月號の雑誌『改造』は勞農ロシヤ承認問題についての四名家の『批判』をかゝげてゐる。スノーデン夫人や、ヴァンデルヴェルト大臣や、エンマ・ゴールドマン女史やの尻馬について、全世界のブルジョア階級を後援者として、無産階級の革命と無産階級の國家とを向ふにまわして得意のたんかをきつたのが『革命家』大杉榮氏である。大杉によるとロシヤの無産階級の意志によりて現在ロシヤに行れてゐる現實の革命の成否などは『どうだつていゝ問題』で『ほん物の革命』『革命のやり直し』

が天から降つてくるのか、地から湧いて求るのか、それともブルジョアの墓口から飛び出して來るのか知らぬが、兎に角『始まるんだ』さうである。この不思議な『革命』は併し地球の上に起るものではないらしい。國際問題も起らねば、資本主義國との面倒な關係もない宇宙の一角で起るらしい。ロシヤの革命はあひにくロシヤといふ國に起つたために、そしてブルジョアを敵とした爲めにブルジョア國との國交が自然に斷絶した。革命のためには『屈辱條約』も忍ばねばならなかつた。そしてブルジョア國家が存在する限り厄介な國際問題がもち上つた。

エーテルの世界か『革命家』の頭の中かにある。本物の革命』なんか『おい等にはそんな事はどうだつていゝんだ。』無産階級の革命はデモクラットが言ふやうな幾何學でもなければアナキストの言ふやうな魔術でもなくて戰ひだ。一體『本物の革命』がどれ程立派なものか知らぬが、現在のロシヤの一億萬の民衆と全世界の新興階級との運命のかゝる『ボリシエヰキ革命などゝいふ革命のにせ物』はどうしやうといふのであるか。これが澁澤榮一とか武藤山治とかいふ人の議論なら筋も通るが『革命家』大杉榮氏の『別にやらな

ければならない仕事』といふのは何のことだか吾々には見當がつきかねる。

大杉氏によると勞農政府の承認を求めてゐるのはロシヤ側だけのやうだが、その次の杉森孝次郎氏によると『打算に基く利益を目的として』。『先づ現在の莫斯科政府を國際的に承認して、日本政府はそれと正式國交を開始する方途に進まなくてはいけないと考へ』られてゐる。杉森氏は無産階級の利益といふ立場からでなく、日本の利益といふ立場にたち、日本の外交のしくじりを『何とも言へずなさけなく』思はれてゐる人である。このパトリオツトですら『今のところでは日本の精神がわるい。態度が小さい』と浩歎してをられる。アナキストがロシアの『借金踏みたほし』を攻撃し、パトリオツトが日本の態度を責める。愈々もつてわからない。

此のわからない問題に一導の光を投げたのは猪俣津南雄氏の解釋である。猪俣氏によると『勞農露西亞承認問題の擡頭および緊張は、各國が戰前の有無有通關係の復興の退つ引きならぬ必要に迫られた結果であるとするのは、たしかに、根據のある見方である。』『けれども共産主義露西亞と資本主義諸國との間に取引關係貸借關係を成立させやうとすると同一瞬間に現はれ來るのは財産權の問題である。』ロシヤは『農業、工業、交通上の諸機械、諸材料、もしくは其れを代表する資金を切要し』共産主義の實現の爲めに『共産主義戰線の退却をも餘儀なくされてゐる』資本主義國は『九死の資本主義經濟に一生を得しめやうと』してロシヤに眼を向けてゐる。併し『共産主義を拋棄せぬ限り…………』などと言ふに至つては『勞農政府を倒さぬ限り…………』といふに均しい。そこに矛盾がある。ロシヤが共産主義の理想を投げすて、降伏するか、資本主義國が脊に腹がかへられないでこつそり手を出すか、それは今後の事實に解決させるのが一番正確だ。

堀江歸一博士は、舊經濟學や舊法律のカテゴリイをならべて、露國を封鎖するゆはれはない。資木主義國のやり方は内政干渉だときめつけられる。併し流石に最後に『勞農政治が如何に露國に行はれたとしても、國民生活に大なる缺陷の存せざる以上、之を承認して國交を開始した所で、何の憂うる所があるであらうか』と附言することは忘られない。吾々もそのやうな『缺陷を存せざる』國民生活をのぞむことと切なるものがある。而してそれがどんな國民生活でなければならぬかは博士と共に吾々の研究すべき問題であ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。

要するに地上に何等かの利害關係をもつてゐる人間は何等かの意味でロシヤ承認の必要を感じてゐるらしいことがわかる。（初之輔）

藝術の遊戲化に就て

新城和一氏（朝日新聞掲載）

新城和一氏の文藝上の二樣の遊戲化を讀んで、氏に言ひたい種々な氣持が溢れた。

プロレタリヤ藝術の問題は、最も現實的であるのに係らず、氏は高樓に坐して超然としながら藝術上の論理遊戲をやりはじめた。氏があくまでも眞實を藝術に要求してゐるその心持はわかるが、その論難はまつたく論理遊戲に墜してゐる。そして現實の問題を論じようとしたゞけに幾多の矛盾をさらけ出した。

氏には藝術を神の如くに偶像化して、その足下に奴隷となつてゐるやうに見える。偶像に眼つぶしを喰はされてすつかり盲目となつてゐるやうに僕には見える。

藝術をどんなにほこらの中にあがめたてまつても、三拜九拜しても、藝術は決して雲の上にのぼらずに、つねに生活の流れに存在する。げんとして存在する。氏は藝術のその名に眼くらんで、藝術を構成してゐる人間生活を考察に入れてゐない。人間生活が藝術としての表現の全部であり基調であることは、どんな藝術至上主義の作品をも完全に貫いてゐるところのものである。これはわかりきつたことである。ところが、氏は、最も現實的な問題であるプロレタリヤ藝術論を、而して最も現實的な生活から出發してゐることを、透視し得ないで、そのうはツつらの手ざわりに論難を加へてゐる遊戲を思ふと、人間生活をはなれて藝術は存在しないといふわかりきつたことを氏にむかつて、あらためて言はねばならないのである。

少くとも、今日のプロレタリヤ藝術の要求は、此の生活の迫實さから叫ばれた。それは幾分か、傾向的なところもあつたとは言へ、その要求の叫びの底には、生活が明らかな、そして必然的な基調をなしてゐた。

藝術至上論を、至上論として論ずるはいゝ。

しかし、それが生活から出發したもつとも現實の問題である、プロレタリヤの藝術論に一歩ふみ込んだ以上は、現

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實を考察に入れべきだ。ところが至上論をふりかざして現實の問題に觸れてゐるではないか。その斷案が結極、論理遊戯に墮してゐるのは當然ではないか。だから、新城氏に藝術論の遊戯化といふ言葉をあらためて返上したくなる。『社會の種々相から永久の眞理』が果してブルジョア作家がこれまで摑み出してゐたか。『永久の眞實味』を汲みとることが出來たか。僕達が指していふところのブルジョア藝術からは、斷じて、『永久の眞實味』を汲みとることが出來ない。彼等ブルジョア藝術が、言ふところの眞實味が小しでもあつたら、とつくに時代の先驅として、環境を發見してゐた筈である。環境のなかの自巳を發見してゐた筈である。沈潜から飛躍があるべき筈だつたのである。生活のうはツつらを、衝動的に流れてゐたのが、彼等の藝術の全部ではなかつたか。それだから、僕は彼等に生活がなかつたといふのだ。生活のなかつた彼等に、『永久の眞實味』がこればつかしもあり得るか。盲目的に、衝動的に、回避的に、妥協的に、ごまかしに、生きてゐる人間に生活があつたと斷じて言ふことが出來ない。面をそむけずに、まつしぐらに現實に突入して、その底から生れた眞實が、環境に反撥し交渉した作品を生まなければならなかつたのに、さうした作家が、さうした藝術が彼等のなかゝらどれだけ見出すことが出來るか。それはつまり、彼等がブルジョア意識を無意識のなかに肯定してゐたのである。惡に滿てる現實に面をそむけてゐたものである。眞實に徹しようとしないで卑怯にも、彼等は技巧のごまかしで生きて來た。新城氏はさうした今までの藝術に、『永久の眞實味』がありとするなら、ブルジョアの代辯以上の藝術の冒瀆だ。さうした、いふところのブルジョア藝術に、痛切に不滿や、嫌惡や、呪咀を感じたところから、プロレタリヤ藝術の要求がはげしい叫びとなり、ブルジョア藝術の否定となつたのである。プロレタリヤ藝術の要求が、どんな論理的形式をとつたところで、過去現在に對する不滿、呪咀が無意識的にはたらいた、つまり、根底となつてゐたのである。

新城氏には民衆に對する『同情』はある。が、民衆に流れてゐる生活味が無いと見えて、『要求』がない。今日プロレタリヤ藝術論をなすものは、大部分民衆に流れてゐる『生活味』を持つてゐる。だから必然的に要求の聲とならずにゐなかつたのだ。だから要求となつたのだ。

新城氏、此の點を何と見る？（賢三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

柳瀬正夢君の漫畫

柳瀬正夢君は僕らの同人であり、漫畫やカット一切を一人で引受けてゐるから、僕は彼のために氣焰を吐くのは多少仲間として苦しい。正夢君とは種蒔き社創業の當時、一緒に飲み、一緒によくうたつたもので、如是閑翁には正夢君については「酒の上の惡友」として、相當に心配をかけたことも事實だ。ところが、最近小さき彼と會ふことは極めて稀なので、その後引つづき飲んでゐるか、どうかは僕の知るところではないが、彼は「日本及日本人」の秋季增刊號に「漫畫新東京」五十葉をのこして、ふらりと門司に歸つたといふ便りを受取つた。彼のことだから、又、ふらりと歸京して知らん顔をしてゐることだらう。

こん度の漫畫に對して、先づ感ずることは、彼の描かうとした場所五十景に綿密な注意と研究を重ねてゐる點でその一つとして空想から湧いたいはゆる達筆と思はせるものはないことである。何んでも、正俊君によると、彼はこん度の仕事を仕上げて病氣に罹り、それで國へ歸つたのだともいふ。あの怠けそうに見え、常に勝手もと不如意勝な彼によくあんな努力が出來たものだ。しかし、これとても彼から言はせ見ると、帝展や二科に出さうとする氣持と全然異つてゐたものがあつたために、ほんとうに自分のために努力したのだつたらうから。彼自身にとつては當然なことであるかも知れない。

五十點もある中から一つ一つの批評も出來ないが、僕の一番恐れ入つたのは、何んといつても「乃木邸」である。軍紳乃木といふことを想像せよ。見物といふ心理と、その僞らざる見物人の態度を想像せよ。果物に無念ない小國民を見よ。更らに又プチ・ブルジョア風の男の立小便を見よ。支那なら「紳士自重」と書かれてゐるところだ。正夢君は恐らくこの作の研究のために乃木邸に敬意を拂はれたのは、今から少くも一箇月以前のことであつたらう。今來て見給へ、もつと良い材料がころがつてゐる。それは、乃木坂の交番から程近くにある鈴ケ森といふ刑場の新設である。そして、そこの立札には、乃木神社建立寄附として、一金拾萬圓也、鈴木商店・其他其他とはでやかに書かれてゐるのである。軍人は死後まで資本の厄介にならなければならぬものか。それとも、また、馬鹿にされなければならぬものか。僕らはその答へをこの縄張り地帶にある黑龍會及其他の有志にたづねたい。そこを通る一聯隊及び三聯隊にいた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つては言ふまでもなもブーブーガジヤガジヤの最敬禮だ。「須田町」も亦すばらしい。簡單な線であの混雜と、動力の運動をしつかりつかまへてゐる。柳瀬君はデナミストであるといふ感じを與へるに充分である。それにしても、正夢君は悪い男だ。廣瀬といふ資本家らしいのに、杉野といふハンマを持ち鐵鎖につながれてゐる勞働者を見おさしたり、又、[illegible]に「此邊は事故の多い所です。お互に注意しませう」かな……。

といふのが正夢君の思想だ。だから、見る人に特別な感動を與へる。それならば柳瀬君は全然テイクニツクを無視してゐるかといふと、決してそうぢやない。「貝塚の丘陵」を見たまへ、「まぐろずし」を見たまへ、「新橋驛」を見たまへ又、「十二階下」を見たまへ。そこに總體を通じて一讓した筆致がある。ことに、今年の漫畫は昨年秋のそれに比してまばらではない。

正夢君、君は僕らが求むる思想の漫畫家だ。君が漫畫に進むことを以つて繪の方を心配する人かある かも知れないが、それは漫畫といふ藝術と、更らにその使命を經視するためだ。おどけでなれは何んでもいいと思つてゐる漫畫家に反して、君は君の目的つまり、大衆の目的に向つて進まうとするのだ。その使命は決して小さくない。僕は言ふ自重し給へ柳瀬正夢君。(小牧)

擡頭期にある農民藝術に就て

最近の『朝日』紙上で、『地から生れる藝術の要求』を書いた小牧近江君の說に就ては、私も全々同感である。

同君の說く處に據ると、この十二月は『吾々の愛する社會主義作家シヤルル・ルイ・フイリツプの沒後十三年に相當するし、それにルイ・フイリツプを紹介した點に於て、オクタブ・ミルボウ、ジヨルジユ・ソレルなどと關係の決して淺くないポール・クローデル氏も大使として、丁度東京に居られるから、十二月を期して愛好の人達が一夕この夭逝の作家の爲めに、寄合をしてみたいと言ふ話が偶然成立した』とのことであるが、洵に欣ばしいことである。どうかそうした意義ある一夕の會合が、無意義に終らないやうに、同時にフイリツプ——彼は決して日本に於ての一時的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

流行對象にならないやう、私は切望するのである。

事實最近の日本に於ては、輸入せられた如何なる作家も如何なる思想も、十分、徹底的に、その眞核が咀嚼されない間に早くも、次ぎの作家が次ぎの思想が、輸入せられ撲滅せられた。が、それでは餘り感心出來ない。吾々は古い？(日本に取つての)トルストイやツルゲーネフや、等の農民藝術家を、再び眞面目に振り返つて見ると同時に、新らしい？(日本に取つての)フイリツプその人をも十分味つて見たいと思ふからである。殊に農民と土地とに就ては、今日以後の日本は必然惱まねばならない運命を擔つてゐる以上益々フイリツプの紹介輸入は、一時の流行であつてはならないと思ふのである。單なる、觀念の上でわづかに論議されて了ふやうでは、實に心細い次第である。フイリツプの藝術、思想の眞核なるものをしつかり摑んで、それを直に(幾分でもいゝ)吾々の生活にまで取り入れなければ、たいした意義をなさないのである。

かくして、眞面目に、フイリツプが紹介せられて、それが重大な動機を作つて、都會藝術に中毒せられた日本現在の文壇が、自ら土他に親しむ眞摯な田園青年の手によつて攪亂される日の來るのを、私は切に待つのである。が、しかし彼等が——擡頭期にある農民藝術作家諸君が、たゞ問題にされやうとしてゐる『農民藝術』その名に對して、一時の浮薄な詩人的エクスタシーからその創作の筆をすゝめる——眞個の農民藝術と呑氣な郷土藝術との區別を忘れる——そんな連中が無いやうに、潛越ながら祈るのである。

言ふまでも無い、農民彼れは詩人ではない。否少なくとも一時的詩人的エクスタシーから、詩を書き小說を書き一躍文壇の人氣者にならうなどとの野心を持つてる、遊民的な徒輩ではない。もつと眞面目な、所謂ブラアヴ・ウウリエ(勇敢なる勞働者)である。底の知れない深い沈默を餘儀なく守つて、自然を相手に大地を相手に、しかもその上、橫暴無比なる地主を相手に、彼等はいつでも暗い壓迫の底に怨恨を吞みつゝある。一見忍從と實に寬大な心——法悅、それに全く滿足してゐるやうに見へても、または、極度に疲勞し困憊し沈退無氣力になつて了つて、到底都會の勞働者が日夜續ける烈しい解放運動には、その眼を向けない深い眠りに落ちこんでゐるやうに見へても、その實絕えない原始的野獸的反抗粗暴な呪咀と憤怒に、內から燃えてゐるのである。

故に彼等は、レフアインされたる美と幻影との官能世界

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にあるひは享樂とポリシーとに渦卷く都會の生活とに、または趣味的ブルヂョア思想が產んだ詩的な鄕土藝術の雰圍氣とに、到底醉ふことが出來ないのである。原始的本能的な彼等の性根は、彼等以外の誰にも持てないそれ程深遠であり特殊である。だから苟も農民藝術の作家をもつて自ら任じ立たうとする、若い田園の靑年諸君は、必ず勇敢にして素朴、眞面目な、しかも無學な(敢て無學を要求する)、その上決して文壇意識にその魔を迷はさない、農民の中の農民でなければいけない。

そうだ、私は、そうした尊敬すべき人達から、ほんとの藝術を待つのである。技巧ではない。スピリツトである。そうした藝術を待つのである。

近く紹介されやうとしてゐる、偉大なフイリツプ、そして今や擡頭期にある日本の吾々の農民藝術、――私はすべてを期待してゐる。(淳三)

二科と展院

一二度行つたに過ぎないのだが、度每に善い印象を持たさぬ大阪は僕の嫌ひな處だ。停車場を下りると直ぐ概念許りの支那に入つた樣な氣がするし、停車場前の飮食店に入ると遲鈍な執拗い蠅にはや大阪を視る。それでも僕の好きなYさんをその郊外に訪ぬるには嫌やな「概念の支那」をも拔けねはならない。

Yさんの郊外へ乘換へる場末の交叉點に電車を待つ間、ボツネンとしてゐた僕は、視るともなしに其處の街角の尨大な洋館を視野に入れてゐた。そのうち何かしらのショツクをうけたやうに初めて壯麗な洋館を意識の上へのつけてみた。それはハリボテの四階許り疊みあげたレストウランであつた。赤と黃と綠大小異形さま〴〵の旗はそれを取捲いてゐた。下の通りにはザラ紙を戶張りして突つかひ板か立掛けてあつた。旗とそれの一々には赤と黑と拔であつたけのメニユがしてあつた。「すし」「ライスカレー」「しるこ」「アイスクリーム」「親子丼」「氷水」「だんご」「ミルクセーキ」「水瓜」「洋食」「ラムネ」「うどん」といふ風に。それの下には賣價もふと〴〵あつたやうに覺えてゐる。隣つて木鼻のバラツクな建增がしてある。外觀に引かへた臭い女の覗いてる中にはあの蠅がうじよ〴〵ゐる樣にさへ思はれた。あゝ厭な大阪が返つて來たワイと思はず顏を顰めた。がその時、實に其の時約束をして別れた二科展のことが想

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひ出されたのだつた。

病的な社會生活を無反省に反映した色の偐澁（くわいにう）はたつた一つ此の會の特色だが、それが印象派に後期印象派に未來派にまで渉つて、而も畫壇の新派をもつて標榜する二科會に於て特に、尙而もそれらを許し擁護する知識階級の階級色を鮮明に反映してゐることに於て、實に皮肉に面白い或現象ではないか。

畫は眞實僞らざる社會相、人間相である。物持にしろ物持たずにしろ一編多種な保護色を持つた賢明な彼等の殆どが（この中には勿論自任プロ主義者やソシアリストも）してやられる此處に氣付きもせず正味の姿を何の平氣で倒影してゐる笑止さは又畫の對象としては當然であらう。

彼等は今年九歳の、彼等だけで造りあげたマンネリスティツクの技法で唯忠實に自然の再現をするに過ぎない。それが社會生活に何の交渉も持たぬ治外法權の區におつぽり出されて、物持階級、智識階級の範圍のみの享樂に供されてゐるのも、現在の畫家等に眞底からの創造性の缺乏してゐる裏書とならう。

「日本人は摸倣の圏内が一等得意でうまいんです」とYさんは言つたが、一體に年々技巧のうまい冴えがみへて來て會員と外來者との區別さへ付憎い迄となり、唯鑑查員的會員のお茶濁しの器用さと、外來者のいこぢで執け拗な努力振との區別のみがある位である。蓋し無個的に迄統一してきたグループにはまたグループとしての晦澁な地方色的二科としての個性が漸く出來得た譯であらう。

こんなことを言つてると紙へ際限もなく、それは二科評を越へて社會の頬にぶら下つてゐる「瘤」の美術界、擁立階級（傳統趣味以外にない物持及知識階級）のそれの總てに抗議せねばならないことになるのだから、それは餘りに階級意識の確然な現在に至つてさへも造形藝術のみを特殊部落的な概念と慣習の彼方に殘して來乍ら未だ現在でさへも全で誰一人無認識でゐられ、而も天晴物識者顏の知識階級の氣弱い本音の趣味が過渡期の產物の神經衰弱者的逃避と諦めの、實に不合理極まる此の境地を現實事實の上に存在さしてゐるのだから。即ち痛痒無感の超越天國の「瘤」へ向けて婆娑けた治療のメスを下すことは判り切つた白畫全然徒勞の〳〵であり、それだけに曲解を避けるべく書き初め樣ならペンの纖細さとてつもない長大さとを必要とせねばならないことになる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

作品評の前にグループに、グループの前に全畫家全畫壇に、その前に先づそれを支へ持つ瘤全體に、さうして作品評の前に是非このとてつもない長大さを要するそれを、言はねばならないのたが、約言すれば極めてそれは簡單でもある。存在の姿を現實に持つてゐ乍ら生活に超越無關係顏で來た此「瘤」一團に、先づ必然であり乍ら理窟許りの樣な言ふべき階級自覺を與へ、そして當然無產者の共同戰線の彼方に對立さし、引導の文句は呼古されたお極りの社會主義者が文章に各々見るがよからう。とてふ簡單に言つて終ふと矢張りひどい曲解をうけさうである。がもう紙數も半減されちやつた。切上ける。

×

出品者の大部分は相も變らず粘つこい熱心な努力を見せてあるが、松本弘二、鈴木亞夫、蟲明柏太、鬼頭甕二郎、小穴隆一、河上左京君等に去年よりずつと鮮明な進捗を見る。林武君は「本を持てる婦人像」他二點に於て自分を失ひかけたやうな氣がしてならない。確かに技巧と構圖の統一に於ては今日のうまさを示してゐるのだが、そのうまさに既に或亞流へ入るべきものゝ萠しがあるのではないか。其處に相殺する無個の「二科個性」は初つてゐるのである。

に二科は珍らしいひとり眞面目な意味の勉强家、ルツソーに似て非な橫井弘三君も今年少々ふやけ始めたのではないか。同じく橫井禮市君のパレツトなども。

流動と破壞を原理とする又其處に近代と交錯の意義を持つべき所謂「未來派部屋」には澤山の「靜物」が並んでゐるが、二科の個性を含んで形式に纒つて上品でことやかな特稱「二科未來派」としては「動物」が靜物にならうと何の不思議があらう。橫山潤之助君のものには往年美術院に於ける萬鐵五君からの味を拔いた樣な線などを見るが、而しそれでも、今年などからキユビズムの出直しを覗かせてゐる中川紀元君の小賢い「化粧」などに比ぶれば、遙かに無智の正直さが善い。ブヾリノフの皮の色を採つた古賀春江君は橫山君よりも持物がありさうだし、おつとり部屋に浸り切つた吉郎二郎君のポエチツクな「合奏」「沐浴」のモチーヴやこなし方も善い。

ジエレ＝エウスキー君の剛健な力のタツチも日本人には持てぬ善い味だ。そのジエ君をスープにした跡の樣な味拔けした石井柏亭君はかたさと確かさに於ては鑑查員御大だけのものをいつも持つて來たが、今年はそのトタンの上に露の下りて來たのが善い。有島生馬君のずるけた拙さは何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふだ。その昔の津田青楓君は微かに「黒き文庫」や「柴ダリヤ」に殘つてゐるか、納まるべき紙本の方へ奪はれた形だ。期待して來た安井君には墮落の初つて來たのを惜しむ。

「安井君は矢張り何の變哲もない勉強の人だから、コツコツ努力許りで行くがいゝんだけれど、時々知惠者振るものだからね」「さうだ賣物の見え透いた懶の青楓君が畫房を新築したり、……それに懶の巣食ふに都合の善い世の中が展けてゐるのだからナ、今年のも變らぬじやらけだらう。」などゝYさんの斷片語を借りて二科評は終る。「西村久二つて伊作君の小つさい坊つちやん、さうか、さう上手なもんかい。ツイ見ないでた心得許りだもんだから、僕も例の山カンかと思つたさ。石井君のデパーメン式營業政策の二科槪念は餘ツ程損だナ……」

×

「一體に會員となると鑑査員顏をしてだるけてしまうんだ、それからみると美術院の方は同人がちつとも緩みをせない勉强振だから見られるよ」とYさんの言ふ樣に、あの何萬年か默りこくつた休火山の樣などつしりした院展隨一で本物の小川芋錢は何ふだ。「小鰕漁」「家鴨小屋」の人物や

火の筆觸に世を屁にした解脱味、「檜原」の例の立樹の燃えて地熱迄屆く風に突入つてる樣は！。飾りない安田靫彥君の「二少女」。賢こく隙を見せない大觀君の「夜」。構圖家龍子君の「つのづきの卷」。觀山君の性格描出「天心先生」。などの努力を何處の鑑査員に求めやう。老果てたと思つた觀山君がヱロセンコの顏に似た「俊德丸」の荒い着物の片暈筆などに於てまた蘇甦しかけたのも嬉しい。が虛無人振つた頃日の溪仙君の「漁火」「岬」の墮落には浮ばれない樣な「若樹の蟲ばまれ」を見て悲しむ。勝觀君の「雨季四題」のはえない出直し風にはひどい無自覺が裏書されてる。南風君のフランス邊りの安更紗模樣。寛方君の「樂土」は或確實な目的に向つて盛らうとした素材の即ちアチャンタやシャバンヌやジオツトの苦心は見えるが結果に於ては全然失敗し了してゐる。昨年金威しのお不動樣「日本武尊」によつて金泥と墨を知らなかつた龍子君は、今年の「庭上印象」の(秋)(冬)に於てそれを裏切る可く獨自な無駄な金泥と墨のにじみを生返らしてゐた。同じく浩一路君が去年のザラ〳〵浮いた群靑の中から。今年は本物の地味な墨の中へ歸りかけてゐるのも嬉しい。御常連では自分を微塵も失はぬ酒井三良君の樂詩「溫泉」一つ。それに正反對なは千靱君の鼻持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならぬ底の見え透いて小賢い構圖の遊戯に墜した「村童三題」。去年のしぶをぬいで車箱模様の蒔繪を千編一律に張り廣げた様な藤井達吉君の「櫻」など。千甕君の四點からは「おぼろ夜」位を採つて、新入選の松尾晃華、茨木芳太郎の二君に今後の健全を祈りたい。前者は春に匿る樹などにまだ解け合ひの足りないものをみるが、薄暮の池面に落付いた人と牛との朴訥な善さ「暮沼」。後者は物象的説明に少しの拘泥もない流墨の中へにじめた明るさに赤い着物の踊子をゆとりよく無雑作に生かしてゐる「八木節」。

彫刻は今年寂び果てた中にも新人二人、杵谷精一君のロマンチツクな無口の「首」と、淺野孟府君のリアリスチツクな雄辯の頭とを得た藤井浩祐君のこなし過ぎた「春」の次に、アルフエオ・フアツギ君の馬鹿に土たつしやな「詩人野口米次郎君の顔」があるが、必要とする力と動きの大不足こそあれあでな朱色を生かした齋藤瑞崚君の「瀑然打發」の方が近しく思はれたのは美術院内であつたせいか。石井鶴三君の見えなかつたは寂しい。朝山君の「木花咲耶姫」を見てゐると切出し儘の丸木を見る様にしかく樹形の束縛を感じてきて、折角天平のふくよかさを盛らうとした頬や頤や手首や腰のふくらみや襞の苦心が消滅してしまふ、矢張り過渡期の「良妻賢母肖像」と名付けたい様な氣がして來る。

此處で又初めの「瘤」解剖の延長が初めたくなるのたが紙が紙が……（門司二ノ九・十二夜正夢）

『三等船客』の出版

巨人前田河廣一郎の『三等船客』は、非常な勢で賣れるらしい。何にしても欣ばしいことだ。もう技巧藝術の時代ではない。かうした眞個の強い内容ある藝術が、ほんとに認められる時がやつと來たのだろう。

僕は責任をもつてこの一本を廣く讀書家にお奨めする。

出版所は東京神田表神保町十番地自然社振替東京三五五一〇番だが、本社に於ても取次する（淳三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

シベリア通信

富永宗四郎

ハルビンにて

(一)ヨツフェ夫人の面影

「今度こそやられる、これが本當のおしまひだ」

こう云つて手を出しても、相手は力強く握りかへし乍ら、冗談だと思つてゐるか、又かと云つた笑顔で本當にしない、「浦鹽だつて、そう急にどうもなりやしないよまるで、面白い話をもつてかへつて、きかしてくれたまへ」落語か講談でもこちらが聞きに行くのだと思つて居るらしい。

こちら放浪の子は名狀しがたいさみしさを感じる、滿洲の野はすでに秋色ふかみ、長春會議の頃はまだ赤旗を飜した人垣のやうに地上を蔽ふてゐた高粱の穗も、今は刈りとられて、さみしい野の上に立てかけられ、野良犬の長い背の毛がさむ風にわなゝいて居る、半ば黄化した欅の梢を見上げ乍ら、これで本當におしまひになるのだがナアと今一度口の中でくりかへして見る。

猛獸使ひは、實際のところ面白くて猛獸を弄つて居るよりもむしろ心の底でいつかはこの猛獸に噛み殺されるのだとの恐ろしい其宿命を呪つて居る、そしてしまひに、噛み殺されるのだ、調馬師は高い垣を飛越へ〳〵して、その愛馬がだん〳〵に一層高い垣を飛越へるのをよろこび乍らもいつかは越へ難い高い垣にブツかつて人馬もろとも、くだけて死ぬる宿命を呪ひつゝその通り死んで行く、私にはその心もちが今よく分る。そして私自身もいつか野の末で、行き倒れるか、う[illegible]ぬ、但しは鐵砲彈がピュンとこの胸板を貫いた時におしまひになるのだと覺悟してゐる、それが相手には通じないのである、

夜の長春の街は相變らず平凡で、うすさむ暗の中に點々として、雜貨店、飲食店、さては巡察署の赤いランプが輝いて居る、會議の頃はそのさみしい町の中の、せめてもの明るいシヨーウインドウの二ツ三ツの輝が、歩道を彩るあ

たりに、若いヨッフェ夫人が唯一人で、モスコウの友達へ御土産を買ひに歩いてゐる姿が見られたりした、その時、私は早速、局にかけつけてこう打電したものだつた、

「双方の代表者は引の準備に忙殺されてゐる、ヨッフェ夫人は單身　質素な外套を着て長春の町、金泰洋行なんかで御土産を買ひあるいてゐる、だれもがあまりその服裝の地味なので氣付かない、其黑いレースの顏蔽ひを通して彼女であると看破した私さへも、一時はをどろいた、彼女の外套は正にモスコウのウェータレスのそれよりも、粗末である、彼女は同輩のモスコウの婦人共産黨員、レーニン夫人、トロツキー夫人、コロンタイ女史、バルバラーノワ女史等のために、七寳まがひのエリドメピンを買ふた」

然しこれは何故か揚載されて居なかつた。

とにかくそうした光景も、もう見られなくなつて、一としきりアカシアの樹も、見すぼらしくなつた長春を、私はハルピンに向つて出發したのであつた、これでおしまひだとくりかへし乍ら、支那人一流のアセチリンガスの臭聲と土けむりにむせび乍ら、列車にのつた、

（二）

長春からハルピンへの旅は、ゆくりなくも去年大庭さんの御伴をして、イルクーツクからモスコウへ、秋の西伯利を旅した、その時を思ひ出させた、

海のやうにひろい大平原が眼のとゞく限り青と黄色の秋の色に彩られてつゞいて居る、ムッチリした乳色の空はいつ迄も〱その上にたれかゝつて、さびしいシーンからシーンがひろげられる、半ば散つた揚柳、病犬の背中のやうなニレの木、その粗林のかげに土饅頭のやうにうづくまつた支那人の泥製小屋に代るに、荒木をくみ合せた常平倉のやうなロシア人の家屋があり、その四角い窓からバラライカか聞へたら驛々のブラットに立つ灰色の支那兵が居なかつたら、五色旗が今度の北京會議で徹せられたらそのまゝソックリ西伯利だ、歐露の大部分だと云つてもよい、伊藤公が鮮人に殺されたと云ふ、日本人にはいつも反省をつよく要求し其良心を刺戟するハルピン驛についた、相變らずチカ〱と電燈の光に輝いて日露支三國の宿引きが窓の下へおしかけて來た、そんな大きな聲で日本語で呼びかけたり、袖を引いたりしてくれるな、私は恥かしくて息ぐるしくてたまらないのだ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ブラットホームの上には東洋協會學校の生徒が立つて歡呼の聲をとゞろかせてゐた、その選手が奉天の陸上競技爭大會に優賞旗を得てかへつたからである、元氣にみちた若い聲い、ブラットホームの天井を吹き上げる去年私のロシア入りの時、丁度、その頃新市街にあつたチタ代表アゾールニンの部屋へ入ると、參人ほどの協會學校生徒が、同じく夏期休みを利用してチタに行きたいからとて、談判して居た、若い人々はまだロシア語が十分出來ないので、私を省みてそう云つてくれろとたのんだ、私もロシア語は頗るあやしいので、英語でその意をつたへた、アゾールニンのセクレタリーは顔をしかめて、校長の許可があればと云つて居た、

その後の事を今聞いて見ると、校長も領事も許可した特務機闘が干渉してオジヤンになつたそうだ、のみならず其中の一人の熱心な主唱者は、危險思想患者と云うので學校を追はれてしまつた、私はその人を記憶して居る丈高い、一寸中平亮君に似た人だつた、

特務機闘の干渉の無法なるは今更云ふ迄もない、けれど今後ロシアに活動せんとする若い人を封じて、白色ロシアの他に何もしらせないならば、浦鹽さへも赤化し去らんとする今日に於て、あの學校はハルピンの小天地だけしか役に立たぬ人間を作つて居るのだ、頑迷者流の下にある若い人々の前途のために私は猛烈な抗議を呈出せねばならぬ責任を感じる。

（二七四頁より續く）資本制度を攻撃する。然し、ルツソオ時代の勞働階級は、將に消滅せんとしてゐた社會に對抗すべき、社會的威力を持たなかつた。從つて形式的理性、純粹論理、常識、自然狀態以外の原理を有することが出來なかつた。これは先に述べた初期の社會主義の空想的概念の特徴と同樣なものである。ルツソオが檢討し研究し、その思想の根底としたのは、生ける現實ではなかつた。ルツソオは、常に生活の書を研究せねばならぬと言つてゐるが、彼は特別な角度から自分の偏見とその時代との角度から生活を究めたのであつた。

地方欄

全國のサラリーマン團結せよ

此書を特に青春の血に燃ゆる若き男女の薄給者諸君に捧ぐ

松木秋風

三十年目と云ふ云ふ猛烈な夏も過ぎて、凉し風の吹く頃になりました。

全國のサラリーマン諸君！　私は、あの酷暑裡を日々御精勤になつた諸君に敬意を表し、此處に、一書を捧げる次第です。どうぞ、ねむけざましにでも讀で下さい。

諸兄諸姉の心からのねむけを覺して戴けば幸甚です。

同じ人間の中にも、あの暑さを避けて、美味いものや、綺麗な着物を買ひ整へて海や、山に遊に行た人達があります。其人達の中には、好な本を讀みに行た人もあるでしよう。思ひにまゝ給筆を遊ばしに行つた人もあるでしよう。或は、甘い戀を囁きに行た人もあるでしよう。然るに、御身等は、財産がないばかり、株券を持合してゐないばかりに、五十や、百の子供だましの樣な金のため、藝術的エキスタシーの境に入る自由もなく、毎日々々あの爍日の下を汗にまみれて往復しなけりやならなかつたのです。

諸君の中には、諸君の職業に非常な美的快感を感受してをらるゝ方もあるでしよう。然し、諸君が、諸君の職業を修得するに要した困難と、諸君が從事する仕事に對する責任の大さを、諸君のサラリーに比較した時、且亦、諸君のサラリーと、諸君の生活を比較した時『悲風千里の感はありませんか？

克苦勉勵いゝ事です。人間として尊い事です。が、今の諸君の貴い血と汗と魂の犧牲、それが何になりませう。歳老た御兩親に、どれだけの慰めが出來ましたか？病める（心身共に）御兄弟にどれ丈の心ずくしが出來ましたか？諸君の御姉妹が金故に心身を奪はれてゆかれた事はありませんでしたか？文明、文化と云ふ術語を、これつぱつちでも『怪しいな』と感じた事はありませんでしたか？

諸君は、どれ丈人間として生活してゐますか？

『人間はパンのみにて生くるものに非ず』なぞと云ふ言葉は無理にも忘れてゐなけりやならないのです。

長い時間を束縛され、生物としての當然の權利を奪はれても諸君は生きんがために！パンの爲に！機械裝置の奴隷の如く、毎日同じ道を通はねばならないのです。

空の小鳥を見よ！蒔くことなく刈ることをせず倉にたくはうるなく、心ゆくまゝに生の歡びを謳歌してゐるではありませんか、働けど／＼樂にならざる御身等の生活よ！監獄部屋の中の生ける屍の樣な諸君の姿よ！野生のゴリラを捕へて檻に入れると、二年以上は生きてゐないそうです。人間も自然に反した生活をしてゐると、それと同じ結果に陷るそうです。

十年一日の如く勤續して、プチブルジョアを氣取らうとする人達よ！萬一、諸君が生き長らへて、重役になり、でかい邸宅や地所が買えたとします。然し。それが何になりませ

う。百人の内の一人か、二人がそれになつた爲あとの九十何人は、鳥獸や、機械以下にならなけりやならぬ世の中です。

ミラボーが云ひました。

『此社會に生存する三種の方法を知る。汝は、乞食たるか盗賊たるか、月給鳥たるか』そうです！資本制度の社會には、この三つより他に生きてる方法はないのです。そして、諸君は、盗賊に酷使されてゐる月給鳥なのです。

盗賊共に欺かれて、貧棒人同志、互に殺し合てる慘めなサラリーマンの群よ！諸君の生活を資本主義の桎梏から解放せよ！解放の大濤に引き寄せられて、全國のサラリーマン兄弟となれ！

思想的に純化し徹底してゐる諸君の階級意識は『資本制度そのもの〻撤廢以外に、プロレタリヤの解放は有得ぬ！』と云ふ明確な思想に致達してゐる筈です。

大きな菓子箱は諸君の前に開かれてゐる、無產者が、揃て、樂しく喰べる時は來ました。

何をぐづ〱してゐるのですか？誤解や、迫害を恐れて先に手を出すのを遠慮してゐるのですか？自から手を延さないで、誰が取て吳れるものか！いつまで變態道德や、宗敎的迷蒙の幻想を追てゐるのです？

一昨年からの輸入超過は、今や五億に達して、在外正貨は、冷藏庫から出された氷の樣な運命になつてゐます。そして、大戰中、うまい汁を吸た諸君の重役達は、此不景氣から逃れようと、物價引下げの美名の下に、月給引下げをやつてゐるのみか、諸君の首までも馘つて自己の安逸を計りつ〻あるではありませんか！

諸君は不勞所得になつて生活してゐる有產階級に、…………………、崇高な自己犧牲と心得てゐるのですか？無智や、迷信の下に、奴隷にまで退化しようとするのですか？

變態道德より醒めよ！宗敎的迷蒙を打破せよ！

彼等に絹を着せんがためには、諸君の御兩親は、飢餓に耐えなけりやならないのだ。

彼等に淸遊(?)の自動車を走らせて若い女を抱かせるためには諸君の御姉弟は身を賣らなけりやならないのだ。やがて、霙のそぼ降る頃、公園のベンチや、ブルジョアの便所の裏に、諸君のベッドが飢や、寒さと共に君達を待てゐるだらう！

躊躇は滅亡ですぞ！一寸の蟲でも彼等の生存權を奪はれる時には、猛然と起て死か、自由を決するではありませんか！。權利を主張するに何の不條理がある？自己を鞭て誤れる狀態に反抗するのが諸君の責任です。

現狀に滿足せぬかぎり、飽まで徹底的に坑爭せよ！

深刻な階級意識に覺めた坑夫、職工諸君は堅い團結を以て、火の出る樣な突擊戰を至る所で開始してゐます。寇讐に向て呼ぶあの根强い、力に充ちた鬨聲を聞け！サラリーマンのみに人類の血が流れてゐないわけはない！吾と吾身を燃してあらゆる虛僞と、罪惡を、此世から燒き盡せ！

それが生んで吳れた此世へのほんとうの報恩なのです。

組織された罪惡と戰ふには　組織された道德でなければならぬ。組織された資本制度と戰ふには『凡ての國の無產階級の結合であらねばならぬ。

諸君は、あの雨を孕だ黑雲の雲行を見ないか？遠い大洋の沖から響て來る赤潮の海鳴りを聞かないか？水平線の彼方に燃ゆる炎々たる燎火が見えないか？火山の底にかどろに轟く地響きが聞えないか？

露西亞革命の偉大なる感激によつて、大なる奮鬪を自覺せる、全國の無產階級の大群は「强大なる大群衆の大運動」となつた。

黎明と日とは來りつ〻ある、そして旗は進む！

諸君の若き熱血に火を點ぜよ！中樞神經と中樞神經とをギッシリ縛れ！腕と腕を堅く組で異口同音に正義の宣戰を布告せよ！

青空高く揭げよ！歌を合唱して階級鬪爭の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第一線に立て！立て社會改造の原動力となれ！
暗黒の歴史を打ち倒して眞人類史の第一頁を飾れ！
こぢ固た淫宗邪教が粉砕されて、あらゆる掠奪者や吸血鬼の影が地上から跡を絶つのももう直だ、
天國は近付てる！
全國のサラリーマン團結せよ！。（九・一五

異端座第九回試演

大 阪 巻 之 介

先月の三十一日夜天神橋六丁目の市民館に於いて大阪の新劇團異端座の第九回試演があつた。上演脚本はダンセニーの「煌めける門」秋用雨雀氏の「東方の星」、シングの「谷の影」の三つであつた。座員は非常に熱心で「煌めける門」「谷の影」共に可なりの効果を收めたが、第二の「東方の星」の第一幕目に於いて現在の官權者やブルジョアの無茶苦茶振りを遺憾なく知らしむる突然の騒ぎがあつた。

此れは後で聞いた事ではあるが、當局の方では、大阪に於ける「種蒔き社」の文藝講演會以來社會主義者の方と異端座とが何か特別の關係のあるものと思つてゐたらしい。殊に先月三十日の試演當日は全國勞働組合組聯合大會が天王寺公會堂で開かれて居て、東京から、大杉、堺、荒畑、山川等の諸氏が來阪して居たので、當局は自分勝手にいろんな事を考えて神經を惱まして居たらしい。同日午後、第九回試演の開かれる前に、異端座の主事中川某氏は出頭を命ぜられて色々の詰問を受けたさうである。中川氏がどう言つても當局の方では飽く迄、今夜は荒畑や大杉が試演を見に行くんだらうとか何とかあきれ果てるほど勝手な心配をして居たさうだ。それに滑稽なのはプログラムに佐藤喜美子と女優の名のあるのを指して、此れは佐藤君（大阪新社會社の社會主義者佐藤藤太氏）の細君か娘かだらうとまで言つた事である。

午後七時からいよ／＼開かれた。觀客も多く座員も熱心に演じた。一番目の「煌めける門」が終つた時、座員との了解の上、平民政府の金咲道明君が壇上に立つて露西亜饑饉救濟金募集の演説をやつた。彼は種蒔き社の「饑えたるロシアを救へ」を手に握り、その悲慘な狀態を語つて聽衆に大きな感激を與えた。彼が壇を降ると共に、數人の人が帽子を持つて廻つたら忽ちまとまつた金が集つた。此の時分から何となく場内の空氣が變りかけた。

やがて第二の「東方の星」の第一幕目があいて五六分時が經つた時であつた。社會主義者に勝手な眞似をさせたといふ理由で、市民館々長の名を以つて試演の中止を命じて來た。開演最中にである。場内は一勢に騒ぎ立ち、觀客は總立ちとなつて警察や館長の横暴を叫んだ。癩病患者に扮して舞臺にあつた異端座の舞臺監督田口眞君が憤怒の涙を流し乍ら「我等の藝術を破壞されては」と絶叫して階下の館長室へ走らうとするのを座の人々が漸く抱きとめた。人々は益々騒ぎ、激怒の餘り大に攻撃の矢を放つた。

此の騒ぎは約三十分餘の後やうやく靜まつたが、ために「東方の星」の上演は滅茶々々になり、直ちに「谷の影」にうつつた。

自分等は全然局外者の立場にあるものであるが、しかし彼等の横暴振りには憤慨せずにゐられない。演劇試演會にしかも開幕開演最中に中止を命ずるなどは、吾が國の新劇初つて以來の事である。饑饉救濟金の募集をやるのがなに故いけないのか、此れは到底常識で判斷できぬ横暴振りである。餓死に瀕してゐる同胞を救わんとする努力を壓迫し、無力なる小劇團を迫害し、藝術の神聖を汚す彼等は呪はるべき奴等だ。此れはたゞに一小劇團の關する問題では無いのである。かゝる壓迫横暴迫害は今日到る所に行はれてゐるのだ。自分は當夜の田口眞君の激怒、觀客のあのすばらしい感情の飛つ走りを思ひ出すと愉快でな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らない。現在虐げられつくしてゐる無數の人々が一齊にあゝした感情に正しく立ち上つた時、そこにすてきな場面が現はれるのだ。ほんとに此れは一小劇團だけの問題ではないのだ。（一九二二・一〇・二〇）

頑迷の瞳を捨てよ

梅野草二

或る御上の御用を司る所での事眞實に裸一貫のプロの傭人が前にも後にも進むも退くも出來得ない困却と當惑の果惡い事だと思ひつくも餓れた猫の前にぶら下つた鰹節で聊かの公金を費消し信用のおけない人間と言ふので即時その場で解傭された。その時同じプロの傭人が見るに見兼ねて――あいつはほんとに僅かばかりの御金を戴いて活してゐた時でさへ、食ふや食はすの哀れな活しを送つてゐたいま廢めさせられては湯も水さへも鉄々飲まれない程困るからどうぞもう一遍使つて戴きたい。――斯ふ言ふ意味の事を涙を流して泣きながら歎願した。

解職せられたものゝ悲嘆と悔恨の涙は言はずもがな、二人の歎願の泣き聲が室内に沈み切つて顫へた。それに對して何になり濟ましたものか、面上を向けた御役人樣――いくら願はれた所で信用のおけない奴を二度參三度も使ふ分には行かないじやないか。――とゝまで斯ふ言つた事なら先づ我慢も細々ながら出來る。然しその後に續けた言葉は。――他人事じやないか、それをはずかしくもなくいゝ面さげて大勢の人の前で泣き吠えやがつていゝ樣をしやがる、あつちへけづがれ、（行けの意）。――斯ふした罵言が一もなく火のやうに浴せられた。

それは全く彼自身に關した事柄ではなかつた。然し拒絶をのるにも拒絶の仕樣があらう、さうした仲間の解職されたのに對して、學問こそない人間ではあるが彼自身の辛酷な半生の經驗の轍を振り返つてみて再び使つて下さいと大勢人の居る前に吾を忘れて同輩のために泣きながら歎願した。

これは眞實に美しい尊高な人間の純情ではないか彼等のやうな何等人生の曲折も經ずお芽出度く世の中に這ひ出て極底階級の人間の生活狀態さへ考へても覗ひても、見た事のない人間にはこうした冷笑の言葉しか恐らく持ろ合せないのだかも知れない。

全くだ！食ふや食はずのその日をどうにかして生きなければならないと思案に暮れながらも困却の究極に立つて活した人間でなければ解らない。この心情！歎願した男も恐らくさうはね返される不安の影が頭の隅にはじめから電のやうに閃めいて居た事であつたらう。然しその結果を憂慮しては居られなかつたのだ。

誰が他人の前で、大の男が涙を流して泣けと言はれた所で泣くと言ふ事を輕視してゐる今日この頃の世の中それも鬼よりも非道い我理我理主義の上役共の前で泣き面を見せたいものがあらう。人々よ！

眞實に自らの經驗に照らして、そのプロの日常の日暮らしの遂には乾魚のやうにならなければならない慘狀をこの上も目視するに忍び兼ねて惠むものがあつたなら、惠み與へたかつたらう。歎願した。

惡い事をした人間を再び使つて呉れと願ふ人間の方が全く無理な事かも知れない。

然し世の中にはもつと大きな醜惡な事柄のみが平然と繰り返されてゐるではないか。

それに比較ぶれば爪の垢程の事だ！

その歎願に及ぶ心を一滴でも汲んで呉れるお上の御役人樣達であつたなら。その日その日を飽食に暖衣に暮し得るブル樣達には眞實にこの心は解らないのだらう。――晝の糧は……夜の糧は……どう仕樣か――さうした苦盃を嘗つた事のない人々には解らない事かも知れない、が同じ地上の人の子であつてみれば嘗苦しみも悲しみも所詮はみな同じなのではないか！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

僅かばかりの金なら懷中たつせりで御出でなさる八字ひげの御人樣方にはどうにかして哭れてもよかつたらう。なぜさうしたプロの歎願を冷笑し罵倒した詰らない端たない事のやうであるが捨てて置けない大きな問題なのだ。

さうした偏見、頑迷、形式、固執、時代錯誤を捨てゝ、ほんとうに人間らしい心を持つて、哭れたなら物の見方批判、感じ、から（四角なものや圓いものさへ、圓いとも四角とも、見れない人々がどの位多くある事か、表をのみ見て、その裏の存在を氣づかない人々がどの位うよ〳〵してゐる事か）脱却して眞實に囚れざる一線の平坦な線上から見下し批判し、感じを得るその事から自覺して貰はなければ社會國家人類のは望まれまい。人間らしい魂を入れ替へて、頑迷の夢から目醒むる事が第一だ。

心ある人々よ！そして學問のないイブノラントな人々よ憂ふるなかれ學問とは學府の椅子にのみ腰を下したばかりが學問じやない。ありとあらゆる人生の苦觀を泳ぐやうに經て來た人々の魂はさうした慘苦に洗錬され、磨かれて輝いてゐる、その人間の學問がどの位尊ひか聊かの觀びも法悦もない落寞とした苦鬪に洗磨された人々の魂はどの位深刻に、教養されてゐるか。

さうした事の前にプロの俺達は今は滲み出る涙を引込ませ、齒を食ひしばつて忍從してゐる。然し必ず正しい事の容れられるその時が、その時が人々よ來る。否完成し築き上ぐる事が出來やう。

その時を怠りない準備と憧憬の下に人々よ！手を握り合ひつゝ苦慘を共にしつゝさらば待たうではないか。（終）

——一九二二年十月九日夜十二時——

極東無產社を設立して入社歡迎す

赤岩光彌

社會の暗流は濁々として押寄せ人心平安ならず折に入つて精神的物質的の壓迫が刻々として我等煙產民の周圍を巡りこの儘に捨て置かんか、我等無產民の生活はなほ苦境に陷り果ては生命をも奪はれんとしつゝある今日我々無產民は宜しく一致團結し元來特別扱の下に奴隷の如き壓迫束縛等の境遇にありし同胞を一時も早く救出し人類のため社會のため平和のため國家なる束縛を破り社會に於ける階級特權を廢し資本制度を破壞し以て絶對自由平等の新社會を建設しなければならぬ。

我々は茲に同志と謀り右の趣旨に基き極東無產社なるものを設立し自然に反する社會を打破し嚴正なる科學的批判を試み以て新社會の建設に不斷の努力をせんとするものなり。

心ある者は參じ集られよ！

一同喜んで迎へん入社誓約書は申込次第送附す

主なる事業を示せば左の如し

一、極東煙產社パンフレット「怒濤」を發行す

一、全國の同志と提携し極力新社會の建設に從ふ、

一、諸方の勞働爭議に干與し嚴正なる批判をなす、

但し當分社費不要

事務取扱

東京府下　寺島村字玉の井八一八新井方

余の軍備撤廢論

赤岩光彌

今次の世界大戰亂に依り交戰國と非交戰國とを問はず干戈の禍ひを受けしもの其數蓋し大なり、之れ當時の如く各國競ひて軍備を擴張し走つて矛槍を磨き他國に對抗したる故一朝事あるや戰禍も軍備に比例して又大なり、若し當時にして古の如く差程大なる軍備なかりせば斯かる大なる戰禍は被らざるべし。

茲に於て列國之に鑑み軍備の縮少を高唱し

たるは之自然の趨勢にして世界人類の爲め實に歡喜に堪へざるのみならず文明の一大進歩と云はざるべからざれど然し余は軍縮を以て世界平和の理想となさず軍備の撤廢されたる後始めて世界平和は招來されるべきと考ふるが故なり。

元來過度に膨脹したる軍備に對し極度の軍縮は幾分野蠻の域を脱せりと雖も其實質に於ては何等異る所なく唯其數字上の縮少に外ならず、苟も世界の平和と人類の幸福とを求めんと欲せば現代社會より軍備なるものを葬らざるべからず。

何人か國家財政の過重なる支出を要する軍備の撤廢に反對する者やある、今日の文明は尙之を人類至高の文明とは稱し難く之を國家關係に就いて檢するも各國其領土を固守し協力共存の觀念に乏しきが故假令ば一國內にて他國民が餓死に瀕するの程度の狹隘貧弱なる地域を有するに反し自國は其領土內に於て啻に國民生活を安全ならしむるに足るのみならず自給自足の餘裕ある經濟關係は尙數代の後と雖も國民生活を支持するに充分なるに抱らず之を排擠するが如きは實に人類の滅亡を意味するものにあらずや

世界大戰亂は最早終局を告げ世界文化的施設に依つて國民の幸福を增進すべき秋に當り日常其必要なき常備兵の設置に付多額の經費を支辨し國民をして其痛苦に忍從せしめんとするは專制壓迫行爲も之甚だしく徒らに國民を疲弊さするに過ぎざるのみならず數多人生の春を奴隸として軍隊に隸屬せしめ貴き力と時間とを空費せしめ何等其存在價値を認めず故に我々は世界文明の發展と人類幸福の增進とを阻止する人道上の地獄軍隊を寸時も早く撤廢せざるべからず今は軍隊の存在する時代に非らず人間生得の權利たる自由平等を價値あらしむる時代なり我々は此意味に於て元來束縛、壓迫、酷使等凡ゆる殘虐を恣に極めたる精神上の我々虐げられたる人間の力に依つて破壞し而して現社會より葬らざるべからず。

然し腕力は處世術とやら一朝事あるときは兵馬の力を要することもあれば强ち軍人の全廢を望む者にはあらざれど現代の如き常備兵の存在は斷じて許さず許すは唯國民義勇兵あるのみ、一朝事起らば國民義勇兵を募り其局面に當らしめ若し募兵に應ずる者あらざればそは明らかに其國家に愛着の念なきを示すものにして斯く國民に見放されたる國家は正に近づけることを實證するものなり。

玆に於て軍備撤廢たるや單に世界文明の發展人類幸福の增進を促進するのみならず延いては社會改造に誘致するものなり。

國粹會と警察

東野菊郎

八月十六七日兩日に亘つて無政府主義宣傳ビラを新京極と西堀川附近へ撒布又は貼付けた者があつた日頃おとなしい京都人の事とて警察は意外(それほど京都は靜かだつた)に思つた、犯人檢擧で今度はこちらが意外だつた何れ勞働者だらうと思つたのが畫工諸君だつた。

京都の勞働者は何時まで黃金時代を夢想して居るのだらう、いくら氣の長い本場だつて呆れてしまふ。

近頃煙敷の勞資濶爭があつた事實はからだ澤田合金製作所は工場を他に貸すと共に使用人の首を切らうとした兩者の戰鬪は鐵始された全職工五十人一人もあまさず檢束された一夜で二三人の外は歸宅を許された勞働者側ば更に三條青年館で演說會を開いた神戸大阪から辯士數名は駆け付けた場內は大入り一人二人九人目まで無事だつた九人目で中止を食つた東側から拍手が起きる西側から「理由を云へ」「警官横暴」の聲が起きる何時の間にか東側の奴等は內襷きはち卷手に十手都下駄と各自得物を持つて演者を取り圍んだ。

聳人

十月號讀後

鎌倉にて　松木秋風

家へ歸つたら種蒔く人が來てゐた直ぐ送つて吳れて有難ふ。

『眼』には醉はされた

河上氏の『斷片』以來の傑作だ？

マルチネよりいくらかいゝかしれない

『遺產』は地主の馬鹿伜に讀ますべくもつとつゝこんで書てもらいたかつた

『屍に咲く』は屍に咲く曲戯としか貧弱な俺の藝術觀には映らない

『美學者の戀』は面黑い

『血痕』には反逆者にも淚が出た松本氏の苦鬪を思ふ　淚が出た。

淳三さん！どつかで赤い酒と革命の歌に一夜を明さう僕は兄と一つ醉ひたい。×××の××と打合せていゝ日を御一報下さい

『おい？仲間』俺には思ひ半に過る作だ雨のそぼ降る晩だつた千駄ケ谷の交番で一戰交へてある土方の家であれと同じ樣な會話に夜を更した事がある。プロレタリアートの强い味方として本號の白眉だ。

『暴風雨』雨と風の向が別々だ別々でもいゝからもつとぐん〳〵吹きまくつてもらいたかつた。

×

「ヴアソル」から取るべくあんな書簡なぞよりもつと大事な事はないか。相對性の主唱者に

「現代が持つ最大天才」とはなんだア氏が曲線の淚をこぼして泣くぜ

秋田方面の御活動を祝す

此冬をあの大雪の中ですごす

種は來春凄い勢で萌え出るだらう。

其の日

細田林藏

それは嵐の日にやつて來る。

風雨に乘じて、

時の嚴かな步調と步みを共にして、

其の日。群集は都會に、

異樣な容姿を成して現はれる。

迅速な言葉な峻な行爲の武裝に身を固めて、

おゝ　私は明かに見る。

躍進する群集の手に、

永き爭鬪に鍛はれたる劍戟の鞘の拂はれるを。

其の日。

暗鬱な都會を、

恐怖と滅亡に戰慄く都會を、

爆發させて行く此の恐る可き威力の前に、

總てを燃燒し盡すであらう炎の前に、

おゝ　誰れか、

何物を以つて支持することが出來るであらうか。

嵐は常に嵐を呼ぶ。

粗々しい激情の迸は、

期せず一致した流へと注がれる。

それは、密雲の深山から、鑛山から、炭坑から、

文、灰色に煙る田野から、漁村から、流浪の旅

から、
波止場から來る。海から來る。
工場の總て、陋屋の闇さから、夜の街から、
牢獄の鐵柵から。

其の日。
嘗ては人々の魂を左右した黄金の魅力も、
淫蕩な夢の誇から、
星にまで結びつけやうとした都會の幸福も、
又、不遜なる勝利者である可く、
歡樂の陶醉から醒めやらぬ日々も、
おゝ 嵐は最後の判決を下すであらう。
群集は、
夫れ自身の立場を獲得するために、
かゝる生活が、かゝる日々が
如何に共存に値すべきかに就いて語るであらう。
そして、深刻なる其等の叫は、
終に熱狂せる群集の手を煽つて、
都會をその根底の深さから覆すであらう。

其の日。
寺院に祈禱の鐘は響かぬであらう。
罪人は、
殘らず法廷から姿を搔き消すであらう。
敎師達は講壇を下り、
上官はその有名な粉裝の假面を剝がれるであらう。
運行の中止を見る總ゆる機關。
おゝ 破壞し盡されたる門扉の奥深く、
空虛なる工場、銀行、會社、大商店を、
又、豪壯なる邸宅の數々を。
浮浪者はその居を劇場に移すであらう。
貧しく病める人々は、
速かに各々の病院へと運ばれるであらう。
遙か地平線上に咆哮する雷鳴に和し、
到る所、
都會を貫く凱旋の狂歡は、
それは 十字街に密集する人々によつて高唱されるであらう。

其の日。
秩序は群集の手に保たれる。
そして、輝かしい未來に向つて、
浄掃されたる大道の上を、
おゝ 朗かに出發する群集の長蛇を見出るであらう。
それは、年久しく、
人々の靈魂に培はれた希望であり、幻影である。
又、我々の運命を支配する理想である。
それは、生命を堵して、
新なる世界を欲した群集の行進である。
斯くて、愛も。自由も。平等も。
總てがこの發剌たる創造の途に上るのである
そこに、君の欲求があり、私の熱情があり、
群集の信仰がある。

其の日。
我々は其處に如何なる變化を認めるであらうか。
おゝ 遂行されたる嵐の朝!
抵抗し難き偉大なる群集の掌をか。
あはれ、
都會に漲る滅亡の悲哀をか。
勝利が、
正しい姿となつて現はれる日よ。
群集の手に再び正義の歸する日よ。
その位置に、
光輝ある榮を太陽が投け與へる日よ。
おゝ 私は信ずる。
この夢想を、この眞實を、
それは、嵐と歩調を共にする。
君の叫であり。私の叫であり。群集の叫である。 ——一九二二、九、二五——

獄囚

幾世紀の間、勞働者、兵士、農民の進路を
遮つて居つた障害物、その暗愴の中に、
未來の藝術がある ——ルナチアルスキー
——詩人よ、君達はブルヂョア悦樂の心理の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先驅者だ。

君達はブルヂョアの殘虐——掠奪——戰爭に隨喜し、謳歌してどんなに君達のパンの主の賞讃を得たか？君達は路傍の勞働者に白い美しい靴を汚されまいとするやうに——生活のためか！且つて一度も革命の眞理が唇から洩れやうとはしなかつた。ブルヂョアの一顰一笑が本質である君達の詩よ！

ブルヂョアの傀儡たちよ？

然も君達はブルヂョアの悅樂の心理の先驅者である、——

君達は昨日、殘虐——掠奪——戰爭等あらゆるものを、歴史必然の進化に動されて唄ひ——ブルヂョアが唄はうとする心理に心血を捧げたのに、最早永遠の死が來たのか？その歴史必然の進化の上に。

君達は潰廢の唄を、我が頭をもたげるやうに長々しく唄はねばならぬブルヂョアなのか？

歴史進化の流の爲に粉碎さるゝブルヂョアのために擁護の鳴き聲をどんなにかまびしく鳴かねばならぬだらう？。

その聲の一つ「詩が墮落する！」

然し、君達は詩を奪つたではないか、——ブルヂョアが富を奪つた如くにそしてブルヂョアの意のまゝに志操を操つられ、全民衆から遙かに切り離し、殿堂に祭りあげ、かくしてブルヂョアの野蠻な毛氈を十重二十重にその錦繡を持つてまとつた。——然し、正味のところ、それは奥座敷の金襴の上の手淫である、刻一刻「詩が墮落する！」。僕等は君達の詩の體系をそのまゝ繼承する迂愚ではない。

君達の手から專制の、否手淫の詩を地べたへ引きづりおろし、階級爭闘の血煙を通過さしそこに生るゝ眞理に結合されてこそ完全に僕等の詩であると斷言する。

いま僕は荒々しく君達の醉體に訣別の言葉を投げつけて、自ら重々しい扉を押して、幾世紀の間、プロレタリアの進路を遮つた暗い建築の中に、全世界のプロレタリアが、苦痛を粉碎して延びて行く力——歴史必要の進化の力を感ずる、困難な進路、然かも前途の暗憺に創造のために戰をいどむ全プロレタリアの一機關として僕自身を育て上げるために。

獄　四

ふと、我をお——びき出し
苛み、享樂さし
心身を裂いて飛躍さすものがあつて、——
心身を痛ます……

五月、——
鐵窓に射す青葉の陰影……
（病んで）
秋水はどこだ？
——わが腑の血——最後のもの……
高熱に打ちのめされてゐる
ふと、板の間のわが顏、——
秋水はどこだ？——
壁が碎かれた。黒い目隱された獄囚のいくにんかゞ通る……
わが顏をのぞいて、わめいて、
戀人よ！
僕が民衆に與ふる最後のもの……したしり…
…靈……血！
群集、——俯伏に目を開いてゐた、
明るい燈の下に集ふ蛾のむれ、
お蝶夫人の舞ふ、帝劇のオーケストラ、
反轉して開く……
しめやかに獄囚の私語く五月の夜……

惡魔たれ

うつろぎ生

俺は絶ず怒れる惡魔だ
聖人は決して怒らないだらう
今の世の中どころが來るべき
新い社會に於てもあるいわ
惡魔たるかも知れぬ、
新社會我心あらゆる物

すべてを凝視し悪魔は怒る
悪魔は悲しんでも決して笑ない
止よ、センチメンタルな泣事は、
此の悪魔は人に犯されても泣よ
俺は知る、お母さんも姉妹も愛人も
眞に悪魔が思ひ通りに動いたら
そんな人達は悪魔に驚き
聖人の膝元に逃げ去つて行く事を
俺は悪魔だ悪魔だ悪魔だ
社會に對しても我が心に對しても
悪魔たれ、さすればいつも社會は
眞劍な眞面目な活氣ある、物だから
ソビエツト

生

K

またまたの禁止、
ブルジョアの迫害、壓迫こそ
我等プロレタリアにとつて
爆彈に口火のやうなもんだ
ブルジョアの政府の壓迫よ
その度毎に俺等の血は燃えあがる
壓迫壓迫
その度毎に俺達は赤い酒杯をあげて叫ばう、
革命は近づけり革命は近づけりと
壓迫に比例して我等の熱情は
傳染し燃えるのだ
壓迫をこそ讃美しよう

俺等は常に準備してゐる
燃えるべき
お々ただ隠忍が覆つてるだけだ
俺の意志と情調を進行する自動車で彩色した
い
常に沈消する意志と感情を
闘争へと突進せしめたい
あの闘争の場面には
生々とし血まみれになつた情熱がある
團結の力こそ勝利の街道だ
我等無産者にとつて進行する自動車は
しかして街上の全音響こそ
を々しき行進曲である

的ケ濱

井ノ川良太

温泉の匂
歡樂の巷のどよめき
かつては「ばくれん」とかいふ貴族なるが故に
評判された女が
いい氣になつて情夫と囁いたとかいふ別府の
温泉場
なんといふ皮肉だ
十町と隔たらぬ汀續きの的ケ濱
松の根元にジメジメとした字義通りの放建小
屋
竹に結ばれた筵の屋根からは
容赦もなく雨は流れ込む
きたない小溝に缺け椀洗ふ
ザン切り頭の四十女
ボロボロの破れ着物は虱ばつかりだ
「ちよつとおたづねしますが……」
聲をかくれば敵意の眼をあげて
「オメガ燒いた」と突然叫んでギロギロ睨らみ
まわす話聲を聞きつけて小屋の外にとび出し
た十餘人の眸は
警戒から憤怒——激昂：殺氣へと爛々と燒
えて行く
虐げられたものの反逆の眸だ
お々虐げられた同胞よ
男とさへ見ればブルヂョアの犬——警官と見
ゆるのか

殘虐の悪魔の使徒と映ずるのか
お々忍苦する同胞の血涙よ
内海へ續く眼前の平和の海さえ大自然の皮肉
だ
悪魔を征服するには
自ら
より強き悪魔となつて闘ふのだ
虐げられて來た同胞よ
強くなつて呉れ
濶然とひらけた平和の海は
やがて共に我等のものだぞ

血のやうな火は燃ゆる！

信友會員　高畑得二

秋深い日に、俺を毆つた
でつぷりした巡査よ、
その、その陰忍な眼

×

こんなやくざな身體でも
いざ〇〇の焔燃えたなら
少しは何かの役にもなるだらう、

×

おめ〳〵と
よくもこの世に生きて居る
奇蹟を思び煙草くゆらす

×

秋晴れに代々木あたりを彷徨へば
キチンと揃へる兵隊の
練習ながめつ〇〇歌うたふ

×

十月十五日午後二時！
都會の一隅に起りし悲慘事よ
電車に轢かれし老人なりき

×

オゝ我が兄弟！プロの子よ！
早く俺達の眞劍を熱を現はす日を
しつかと手を取り、共に呼ばうよ。

無題

ＫＯ生

ゴシリ、ゴシリ、
キラ、キラ、光る
朝陽を受けて
鑢の擦屑。
鑢握れる
屈强の腕より
刻一刻
青血を吸ひ取る
冷かなる地。
肥滿せる脂肪面の
ブルジョアの幻影！
鑢持てる人滿面に
朱を灑ぐ。
しかし
段々と蒼白くなつて來る
光る烱眼
あゝ近し〇〇
腕は動く
ゴシリ、ゴシリ。
（京橋より無枕更郎）

×

東京の讀者だけでも集つて一度話して見たいといふ議は大賛成で切にそんな機會の來ることを望んでゐました是非具體的立案をして下さい。（福島より風來坊）

×

本月號で近く東都の讀者大會が開かれると云ふが私は遂近頃から種蒔く人を讀み初めたのだが何とかして出席したい赤坊の讀者でも繼子扱にして貰い度くない一層の事地方の有志も合して地方的にも互に親しい氣持に浸つて居る事の出來る樣にして貰ひ度い。

〰〰〰〰〰〰〰〰

（二八三頁より）りの病院へつれ込まれた、吾が京都の警官は之を保護の名の許に檢束した數四人三條通りの商人はばた〳〵店を閉めた倏りだ勞働者が可愛想だとさゝやきかはされた。

此の日吾が五條警察は正服巡査五十名私服三十名他署より二十名を場內警備として送つて居た、そして被害者が檢束されて加害者は一名も檢束されなかつた。

國粹會員は言つた「ドウセ俺達が出なくちや納まらないのだ警察が何が出來る者か」かして下廻り二人は自首してでた暴行者として警察と國粹會――

僕の目から淚が止めどなく流れる

もうペンを持つ氣力がない讀者諸君全世界の勞働者よ團結せよロシヤを見習へ革命は僕等の唯一つの道だ正義への

社會主義講座（三）

――十八世紀に於ける社會主義（ジャン・ジャック・ルツソオ）――

十八世紀に於て、屢々相反對した二人の最も代表的な人物は、ヴオルテエルとジャン・ジャック・ルツソオである。

ヴオルテエルは、當時の社會變革にあたつて、權力を握り、決定的な役を演ぜんとしてゐた、その前夜に於ける新興ブウルジョアジイの、最も特徴ある、また最も顯著なる代表者であつた。

ヴオルテエルは、教育ある、野心に滿ちた、且つ富める大ブウルジョアであつて、その人物、その仕事、その行動で以て、全世界を充滿せしめた。彼は宛然、十八世紀を貫く、理性と批判との權化であつた。諸國の王侯、宰相、大貴族は、「才智の王」とも言ふべきヴオルテエルを跪拜したのであつた。王にも非ざる、單に才智ある文學者科學者にして、此の如き恐るべき役を演じたのは、空前の事であつた。

ヴオルテエルは、非常に樣々な性質を一身に集めてゐた。即ち、歷史家、劇作家、悲劇作者、詩人である上に、自稱大女帝カテリナ及び、普魯西軍國主義の創設者、フレデリックの政治に參與した點で、ある程度まで政治家であつた。

此處では單にヴオルテエルの社會思想だけを問題としよう。此の世界的な男は、何よりも先づ、甚だ狹隘な個人主義者であり、ブウルジョアであつた。次に彼の特徴を非常によく現はした一句、一切の傳統と一切の宗教的迷信に對して宣戰した一句を引用しよう。「恥ぢしらずを踏みつぶせ!」「恥知らず」といふのは、教會であり、正教である。また次の有名な文句を言つたのも彼である。

「若し神が存在しなければ、神を發明しなければならない。」その意味はこの天國の愚妄がない時には、人々は地上の愚妄、即ち富者、國家に對する服從、或は年貢の上納（當時まだ封建制度が廢されてゐなかつたから）等を承知しようとしないと言ふのである。

そこでヴオルテエルの自由思想とは特權の鬪で止つてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るものである事が、解つたであらう。

彼の一切の哲學、彼の文學的天才——哲學者として彼は平凡で淺薄であつた——は、要するに彼が稱して「善き友」と言つた支配階級のためになされたのであつた。反對に、彼が稱して「賤民」と言つた民衆は、日々の勞働に服し、遠くから哲學や藝術を賞讃する樣に運命づけられてゐた。此の大衆、この民衆の群に對しては、宗敎、敎會、支配的國家を與へよ。「善き友」に對しては、一切宗敎の自由批判、藝術、科學、哲學、迷信に對する鬪爭を與へよ——と言ふのである。

これがヴオルテエルの社會的及び政治的思想であつた。彼は善良で寛大であつたがため、敎會に對しては屢々反對した當時の敎會が、異端者を國家の手に委ねて、燒かせようとしたりする時には、ヴオルヲエルは忽ちその健筆を振つて、熱狂を粉碎してしまつた。かくして、彼の死後數年にして起つた大革命に於て、その特權に對する鬪爭にあたり、ヴオルテエル流の哲學が何故利用されたかが解るであらう

十八世紀に於ける他の代表者ジヤン・ジヤツク・ルツソオは、社會的不正不平等に向つて、最も猛烈な最も誠實な抗議をなしたのであつた。その點で今日甚だ興味である。

ルツソオは搾取と不平等の上に立つた社會を心から排斥した從つて、ルツソオは社會主義者かどうかと言ふ事は屢々論議される事である。

勿論、社會主義といふ言葉の近代の意味に於いて、即ち被搾取階級の、所有階級或は資本階級に對する戰といふ意味に於いて、社會主義或は共産主義を考へる時には、ルツソオは社會主義者ではなかつた。然し、その當時の思想では社會主義者であつた。兎に角彼は當時の社會主義者に對して、銳利な武器を與へたのであつた。ジヤン・ジヤツクは、大革命の社會的性質が益々强調されて來た、一七九三年以來の革命の第二期の眞の使徒であつた。彼は崇拜者は持たなかつたが、信者を持つてゐたといふのは正當である。逆にヴオルテエルは崇拜者しか持たなかつた。

ジヤン・ジヤツク・ルツソオの人物に就いて一言する。彼は一七一二年に生れ八七年の革命の數年前、一七七八年に死んだ。彼の一家は、新敎徒迫害の時、瑞西に移住して來た、小商人であつた。ルツソオは非常に虛弱で、怒り易い性質であつた。彼の「懺悔錄」を讀むと、彼の生涯は善く解

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。それは流轉を極めたものであつた。彼は殆んど一切の職業をした。或時は一介の勞働者となり、或時は從僕となり、或時は筆工、或時は秘書役などになつた。然し最も强い特徵は、その深い人間性、その同情心、總て惱める者に對する憐憫である。彼自身が一切の社會的不正と社會的病氣に餘りに苦しんだがため、惱める他の者に同情せずには居られなかつたのである。

ルツソオは二個の著作に依つて有名になつた。第一は科學と藝術の價値に對する逆說を書いたもので、アカデミイの賞金を得たのである。デイジョンのアカデミイは次の問題を出した、「藝術と科學の影響は如何？」ルツソオは、包括的な「否」といふので是に答へた。彼はこの影響は人性には惡いものであると言ひ、一切の人工的な點を取除いた自然の狀態が人間にはあるもので、この自然の狀態が、最も善い、最も完全な狀態であると言ふ、彼の根本思想から出發した。人間は生るるや善である。とルツソオは主張する人間を毒するのは社會であり、人間に一切の惡い本能、一切の慾望を起させるのは、藝術と科學である。人間に最も善く適したのは原始的單純である。

ルツソオは理想を、吾々の樣に未來に置かず、過去に置いた。黄金時代は吾々の後にある。彼の「人間不平等の起源と基礎」に關する論文は、社會と財產の形式の問題を主として取扱つてゐる。この故に、彼は吾々に特に興味がある。

エンゲルスは、理想主義哲學には――組織を發見し、自分だけの頭腦の中に全世界を創り、あるが儘の現實を究めようとしない理想論には――少しの同情もしなかつたが、此の「人間不平等の起源と基礎」に就いての論文は、著しく深刻な著作である事を認めた。エンゲルスが、ルツソオは眞の辨證論者であると言つたのは、最大の讚辭である。吾々がマルクスの理論を研究する時、辨證法とは何であるかを述べるであらうが、エンゲルスのこの言は、ルツソオの著作が、理想主義的な性質のものであるにも拘らず、現實主義的な理想の寶庫であることを示すものである。

事實、次に示す屢々引用される一句は、彼が共產主義の明瞭な暗示と、深い豫感を有してゐた事を物語る。

『ある土地に垣をめぐらして、「これは自分のものだ。」と言はうと思ひ、且つ他の人達がさう信ずる程單純であることを發明した、最初の人は、私有社會の眞の創設者であつた。棒杭を拔き、溝を埋めて、自らの同胞に向ひ、この欺瞞者

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の言ふことには氣を許すな、若し諸君が果物は皆の所有であり、土地は誰にも屬してゐない、と言ふことを忘れられたら、諸君は破滅するであらう」と叫んだ人が、如何に多くの罪惡を、戰爭を、殺戮を、悲慘を、恐怖を、人類から取除かなかつたであらう!』

この簡單な天才的な文句の中には、私有財產の一切の哲學が見られる。彼は私有財產を以て、一切の罪惡、一切の戰爭の母と見た。彼は戰爭を是認した現在の社會主義者連より、遙に進んでゐた。彼は誰が最初の攻擊者であるかを問はなかつた。それは私有財產であつた。

あらゆる種類の恐怖を、ルツソオは社會の經濟的基礎で說明する。そして、單にこの一句だけでなく、他の多くの章標に於て、種々異つた社會的現象を、經濟的基礎即ち、財產に、誘導する、現實主義的說明をなしてゐるのである。「安樂を願ふ事が、人類の行爲の唯一の動機であると」ルツソオは言ひ、その安樂とは何よりも先づ物質的な安樂であると考へてゐる。

社會の起源を說いて、ルツソオは言ふ。「總てが狀況を變へ初める。これまで森の中をさ迷つてゐた人々は、一層固定した場所を占めて、除々に近づき相ひ、種々の團體に集まり、遂にその地方に、風俗と性質の一致した特殊な民族を形成する。その結合は、規則と法律に依つたのではなく、生活と食物との同類に依り、氣候の共通的な影響に依るものである。」

かくの如く、社會形成の基礎は、物質的生存の條件であるといふ考は、歷史的唯物觀、マルクスの思想の根底である。

また次の如くも言つてゐる。「冶金術と農業とは、その發明に依つて此の大革命が產み出された、二個の技術である。」

この現實主義——言ひ得べくんば、この唯物主義——の外に、人道を破滅さしたのは、麥と鐵であり、生產の發達であるといふ、一の新說、逆說が、ルツソオにはある。生產の發達は文明を創つた、所が文明は惡である、故に人類を破滅さしだのは、生產それ自身である、とルツソオは言ふのである。

ルツソオは、一切の歐洲文明を、鐵と麥との豐富に依つて說明してゐる。現代のマルクス主義者は、ある國の政治的、智識的、道德的、社會的狀態を硏究する時には、何よりも先づ、エンゲルスの言葉に從へば、その國の生產する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

物、即ちその經濟的構成は何であるかを尋ねる。これと同樣の、物質的先入見を、「人類不平等の起源と基礎」の中に見出す事が出來る。

ルツソオは、文明の發達を述べた後、戰爭に就いて、次の如く言つてゐる。

「自然を戰慄させ、理性を衝撃する、民族的戰爭、戰鬪、殺戮、復讐及び人類の血を流す名譽を以て、美德の列に置くといふ、恐るべき偏見は、すべて其處から發した。最も正直な人達でさへ、自分達の同胞の首を切ることを、その義務の中に數へる樣に心得た。（ブランはそれを國民的防禦だと言ふ）かくして、人間は幾千となく、何故かを知らずに、殺戮しあふに至つた。そして、幾世紀の間、地球の全表面に渡つて、自然の狀態の時、行はれるよりも以上の殺戮が、一日の戰鬪に依つて行はれ、より以上の恐怖が、一都市の占領に依つて起されるのであつた。（若しジャン・ジャックが、現代の軍備の進歩を知つてゐたなら、何と言つたであらう！）かくの如きが、人類が種々の社會に分離した點から起る、最初の効果である。」

ルツソオに從へば、社會的狀態とは文明であり、生產の發達である。眞の現實主義者としての彼は、此處に社會の基礎を見た。然し、理想主義者、空想家としての彼は、これを非難してゐる。何故なら、一切の不正、悲慘、支配の形式、人が人を搾取る形式を撲滅することの出來るであらう社會的威力を、彼は當時の社會に見出さなかつたが爲である。吾々が今日見出してゐる、この社會的威力を見なかつた結果、社會から一切の悲慘を除去するため、ある支柱を、ある土臺を求めた。彼はこれを自然の中に有名な自然に歸れの中に求めた。此の思想は全時代を支配し、全文學を產んだ。

ルツソオは前述の著作の他の所で言つてゐる。

「若し吾等にして、此等の種々異つた革命の中の、不平等の進步の跡を尋ねて行つたならば、法律と財產權の設立はその第一の條件であり、司法官職制度はその第二であり、而して第三及び最後は、法律的權力の專政的權力への變化である事を、發見するであらう。」

この一節で興味あるのは、財產を以て第の動機となした點であるが、ルツソオは更に進んで次の如く言ふ。

「野蠻人は自身たけで生活する。社會的な人間は、常に自分の外にあつて、他人の意見に依つてか生活し得ない。」

眞の獨立を、彼は野蠻狀態の中に見た。野蠻な狀態は、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自由の狀態である。が反對に、文明の狀態、社會的狀態は、人間が自分だけに關係しない狀態であり、言はゞ人間が內部に於いて生活しない狀態である。人間は常に外部にあつて、他人の意見の中に生活する。

吾々はこの種の章標は無數に引用することが出來る。然し、諸君は既に、ルッソオが何故に大革命の第二期に於て、貧困者の位置の向上に主として力を盡した人達の良心の眞の哲學者となる事が出來たかを、理解したであらう。

ジャン・ジャック・ルッソオに於て、吾々は二個の部分を辨別せねばならぬ。一はその財產の批評であるが、これは全く立派なものである。他は「自然に歸れ」、野蠻狀態の理想に復歸せよ、といふ假定である。

この「自然に歸れ」といふ假定を分析しよう。

自然とは一體何であるか究極に於ては、一切が自然であるといふ事が出來る。起り來るものは——進化、變化、變革の如き——自然の永久的法則さう言ふものがある。とすればと同樣に自然的である。吾々は、變化、變革、進化の如きが、自然の最も一般的な法則であると言ふことが出來るのである。歷史と自然の對立などと言ふのは、拵へ事であつて、要するに十八世紀の所謂空想的な、合理主義的な論理に過ぎない十八世紀は前述した樣に、一切を論理に從はしめ、一切を人間の頭腦に置いた。然し、それも歷史的必要の然らしめた事るある。一切の傳統一切の偏見に對しては、宣戰しなければならなかつたのである。

今日では、吾々は歷史を自然に對立せしめない。マルクスは資本家社會の發達を說く時、言つた。「自分は歷史自然的法則を立てた。」彼は歷史と自然とを同樣の法式の中に置いた。進化發達も明に自然の出來事である。

次に、ルッソオの理想的な野蠻な狀態といふ考は、全然誤つてゐる。何故なら、最も原始的な野蠻狀態も進化の產物であるが故に、さう言ふ狀態は存在しないのである。若し此の野蠻狀態が何等の過去を特たなかつたら、それは絕對的に無力であり、一語も發する事は出來ない。吾々がダアウインの理論を認めるなら、動物狀態に於ける人間でもその歷史を持つてゐる。それは自然の狀態といふものを持たない。動物も人間も樣々な階段或は時代を經て來たのであるこの樣に、自然に歸れといふのは結局、文學的思想であつて、非常な反響を起した一の逆說であることが理解される。

今日では、吾々は新しい階級即ち生產階級の名に於て、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義研究

十一月一日發行

インタナショナル研究號

定價一部三十錢 税一錢

市外大森入新井

社會主義研究社

前衛

十一月七日發行

ロシア革命記念號

定價一部三十錢 税一錢

市外大森入新井

前衛社

無産階級

十一月七日發行

ロシア革命記念號

定價一部三十錢 税一錢

市外代々幡町幡ヶ谷四〇

無産階級社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前號目次

一週年（題言）……………
夜（戯曲）…マルセル・マルチネ
眼（小說）……………山川　亮
遺産（小說）…………津田光造
屍に咲く（戯曲）…………上野虎雄
美學者の戀（詩）…………村松正俊
血痕（小說）…………松本淳三
おい！仲間（小說）………今野賢三
暴風雨（小說）………松本弘二
□世界欄―地方欄―鋒人………
□秋田青年思想研究會の創立………
□社會主義講座…………
□アインスタインよりバルビュスへ…

編輯後記

十月號は素敵に反響があつた。砂粒のやうな創作でもそれがたゞの砂粒でないことを認められた。殊に新進批評界の權威たる前田河廣一郎氏が、多忙な身をも顧みずして僕達のものを讀賣紙上に批評して呉れたに就ては、可なり難有いと思つてゐる。砂粒なら砂粒でいゝから、少し異つた毛色の砂粒でぐん／＼押して行かうと思つてゐる。未來は吾等のものだ。多數の同志と一緒に命がけで前進する。

ところで今月はロシヤ革命を紀念するため、ゴルキイ對ラデツク論爭で殆んど全誌の半ばを埋めた。それから別に『赤列車』と言ふ欄を設けて、武林無想庵・青野季吉兩氏を載せることにした。今後の『赤列車』は何處へ誰を載せて走るか？　石炭のつゞく限りは遠く疾走さすつもりである。…………

定價　一冊三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　毎月五日

大正十一年十月廿八日印刷納本
大正十一年十一月一日發行

東京府下代々木大山千四十四番地
發行人編輯人印刷人　今野賢三

東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷所　同工社

東京府下代々木大山千四十四番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

蒔種く人　第二年第三卷第十四號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十一年十月二十八日印刷納本　大正十一年十一月一日發行

本號特價三十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蒔種く人 第二年第三卷第十四號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）

大正十一年十一月二十八日印刷納本
大正十一年十二月一日發行

本號特價三十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十一年九月廿八日（印刷納本）
大正十一年十月一日發行（毎月一回一日發行）